

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

ジェネリックスキル 測定の試行と 分析の報告

学校法人河合塾 教育研究開発本部 開発研究職 成田秀夫
株式会社リアセック 代表取締役 松村直樹

CONTENTS

1. ジェネリックスキルの測定
2. リテラシー領域
3. コンピテンシー領域
4. 分析結果—信頼性と妥当性—
5. 評価と育成の連動

1. ジェネリックスキルの測定

1-1 ジェネリックスキルの概念整理

1-2 ジェネリックスキルの評価

1-3 試行版・ β 版の概要

■ 知識基盤社会 (knowledge-based society)

新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会

- 1) 知識には国境がなく、グローバル化が一層進む
- 2) 知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる
- 3) 旧来の考え方の転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる
- 4) 性別や年齢を問わず参画することが促進される

(平成17年の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」による)

■ 能力観の転換

知識の多寡よりも、
知識を活用して問題を解決することが重視される。

本田由紀『多元化する「能力」と日本社会』

「近代型能力」	「ポスト近代型能力」
<p>「基礎学力」 標準性 知識量・知的操作の速度 共通尺度で比較可能 順応性 協調性・同質性</p>	<p>「生きる力」 多様性・新奇性 意欲・創造性 個別性・個性 能動性 ネットワーク形成・交渉力</p>

■ 生涯学習社会

- めまぐるしく変化する社会
- 大学で学んだ専門知識だけでは対応しきれない
- だれもが未知の事態への対応が迫られる



生涯にわたって学び続ける力＝learning ability

教育の世界

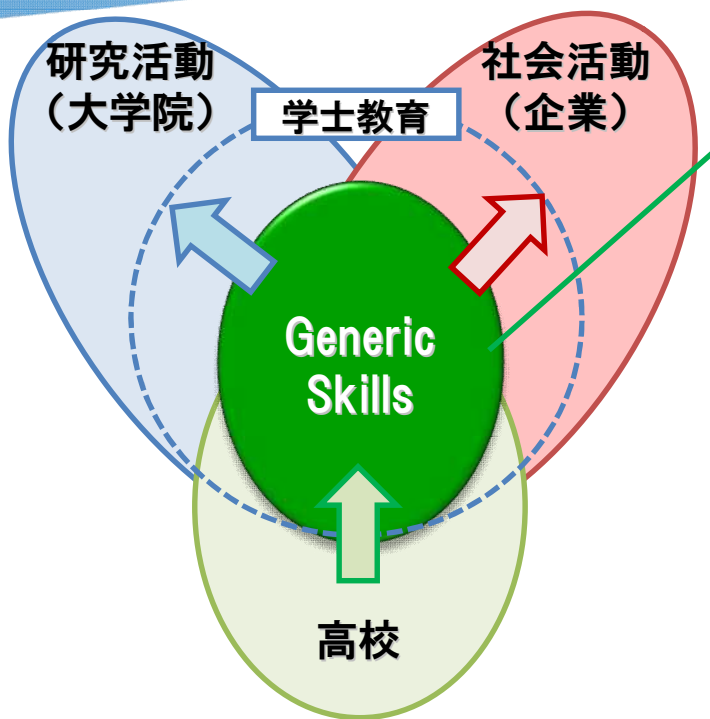
専門教育
(Specific)

転移／適応

仕事の世界

職種
(Specific)

**基礎力としてのジェネリックスキル
学生のエンプロイアビリティを高める**



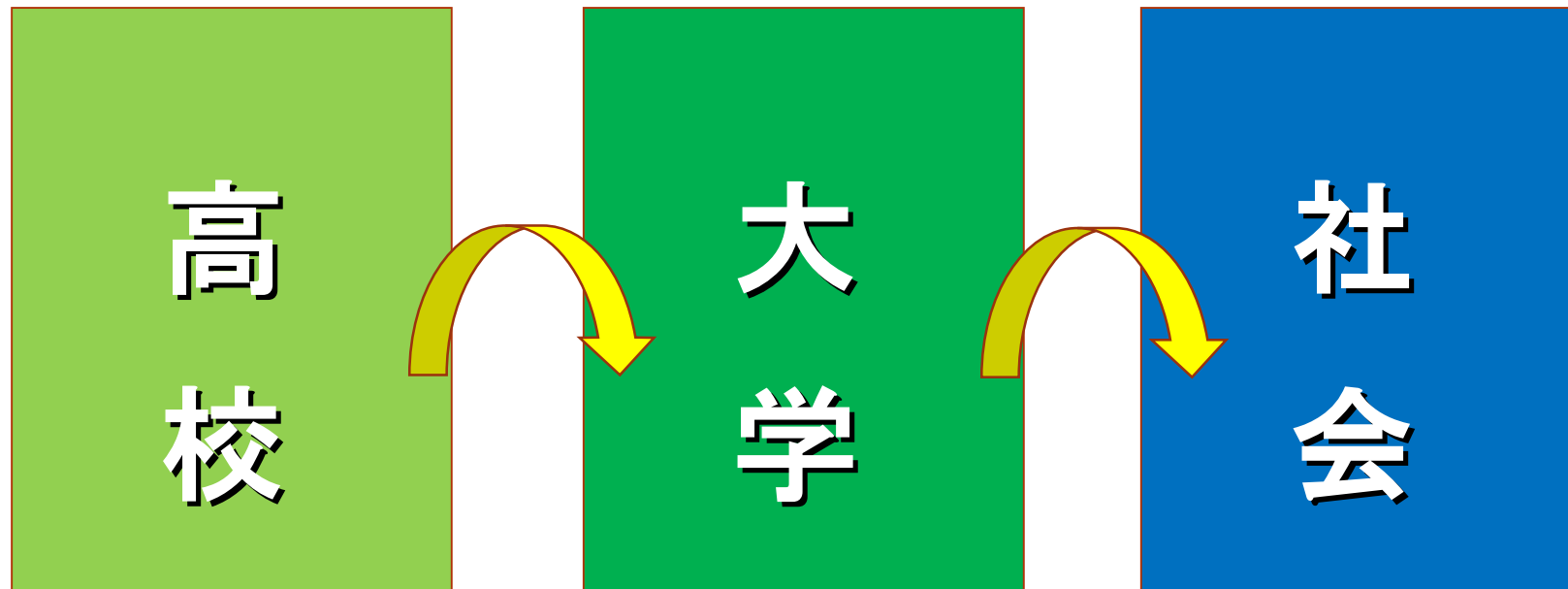
ジェネリックスキルは、高校までの教育においてその土台が形づくられ、学士教育過程を通じて形成されていく。

Barnett
高等教育のスキル

香川順子、吉川恵子
「汎用的スキルに関する概念整理と育成評価方法の探索」による

	学術的	
特定の	学問領域特有のスキル	学問領域を超えて共通するスキル
	職業的	一般的
	職業特有のスキル	汎用的なスキル

- 二つの接続問題を解消するために
 - 高校—大学での学びを社会につなげる
 - 教育界と企業社会が「共通言語」をもつ必要性がある

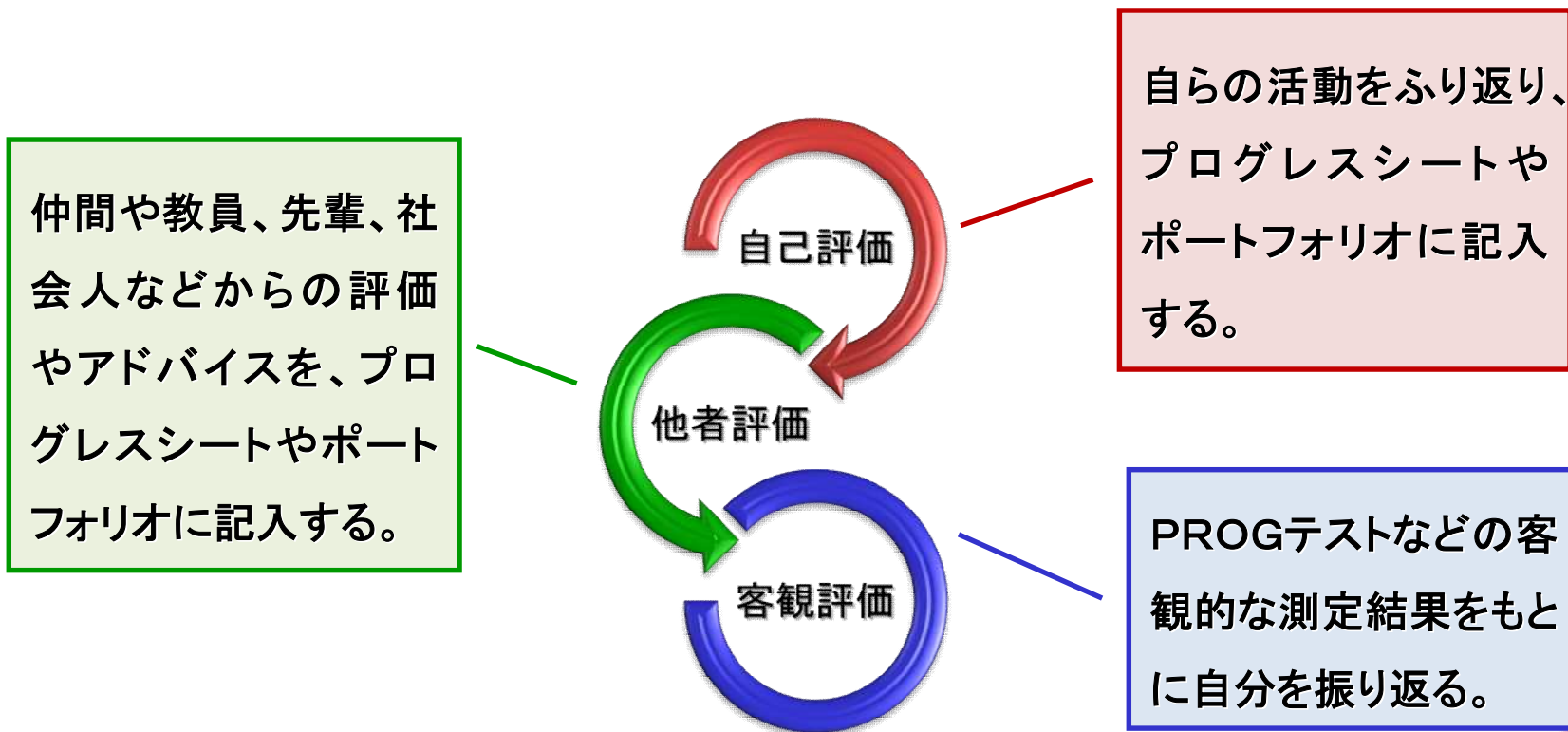


教科教育・専門教育 + Genericskills

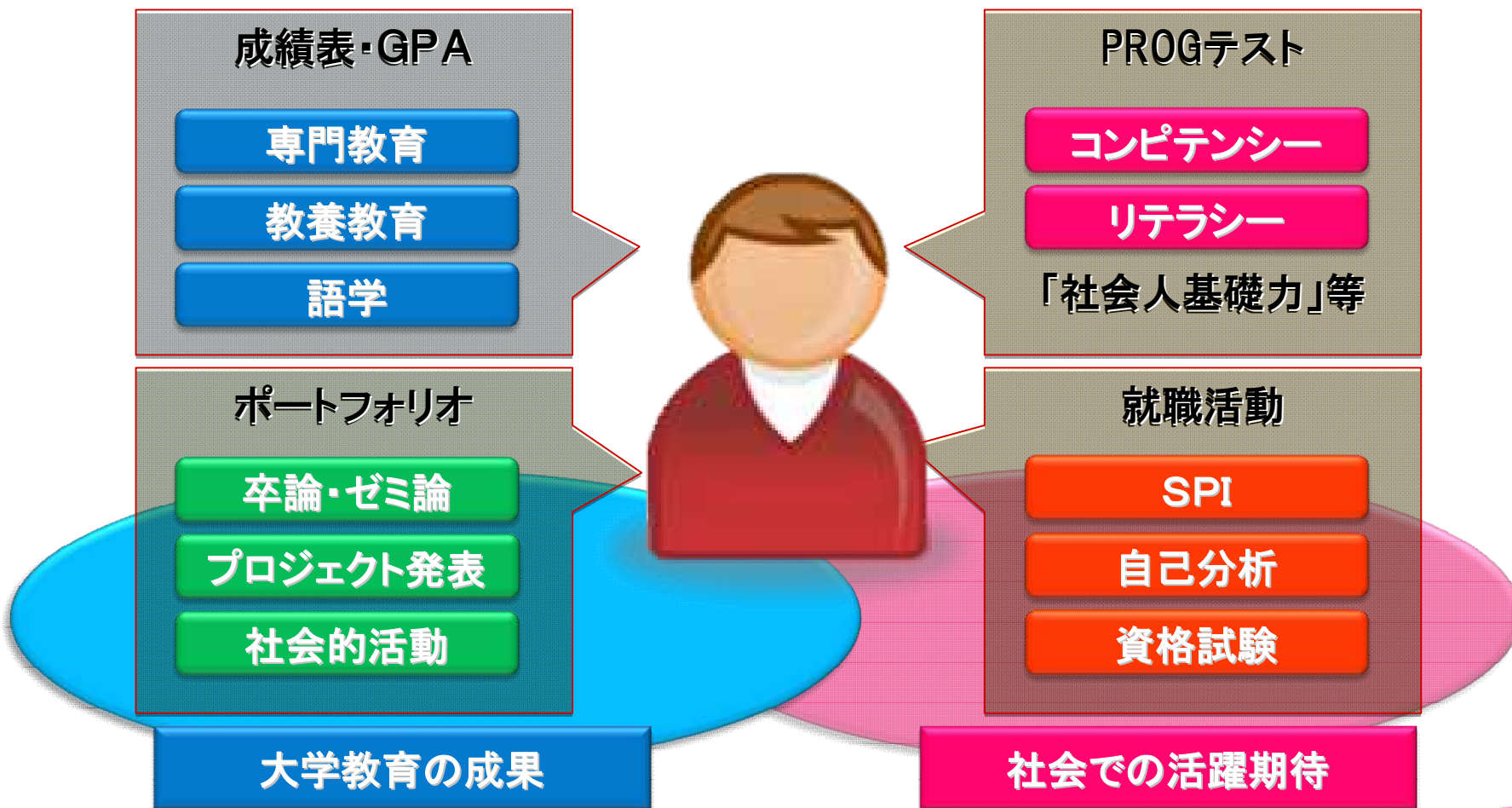
■ 現代社会における評価の複合性

■ 自己評価・他者評価・客観評価の有機的連合

■ 診断的評価・形成的評価・総括的評価の有機的連合



■ 評価パラダイムの多様性



■ ジェネリックスキルを2つの側面から測定する

■ **リテラシー=実践的問題解決力**

■ **コンピテンシー=実践的環境交渉力**



リテラシー領域

「知識基盤社会」を生き抜くための、リテラシーを測定

- ①活用力を測るオリジナル問題
 - ・現実的な場面を想定して最適解を求めさせる
- ②新しい統計的手法を用いた能力評価
 - ・ニューラルテスト理論を用いて、受検結果から事後的に潜在ランクを推定する

問題解決領域

問題解決力

情報を収集し、分析して課題を発見し、解決に向かう力

- 情報収集力
- 情報分析力
- 課題発見力
- 構想力

コンピテンシー領域

ハイパーフォーマーのプロフィールを基にした能力測定

- ①社会人ハイパーフォーマーとのマッチング
 - ・社会人ハイパーフォーマーのデータベースから能力要素を抽出
- ②客観性を高める採点手法
 - ・ハイパーフォーマーの回答を基に項目選択
 - ・ハイパーフォーマーの回答を基に配点

対課題基礎力

情報を収集し、分析して課題を発見し、解決に向かう力

- 課題発見力
- 計画立案力
- 実践力

コミュニケーション
マネジメント領域

試行版と製品版では
項目の名称が異なります。

対人基礎力

他者と豊かな関係を築き、協調し、動機付け、巻き込んでゆく力

- 親和力
- 協働力
- 統率力

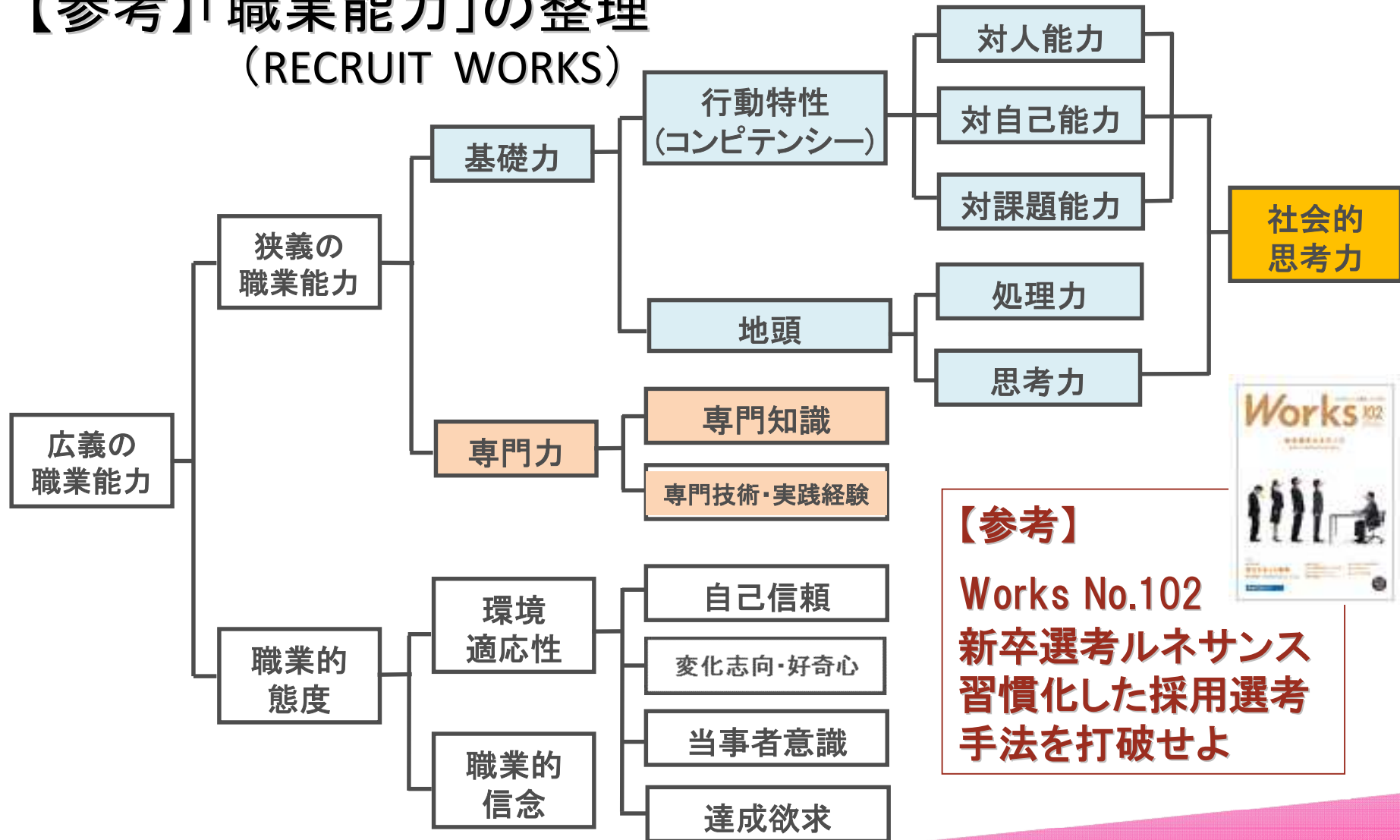
自己管理領域

對自己基礎力

自分の気持ちをコントロールし、前向きなやる気を維持する力

- 感情制御力
- 自信創出力
- 行動持続力

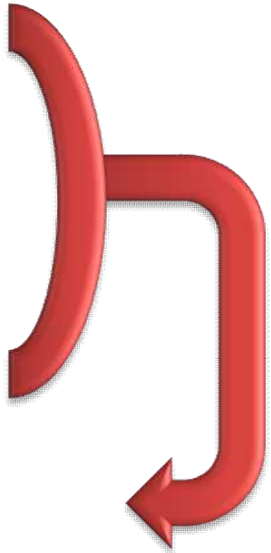
【参考】「職業能力」の整理 (RECRUIT WORKS)



【参考】

Works No.102
新卒選考ルネサンス
習慣化した採用選考
手法を打破せよ



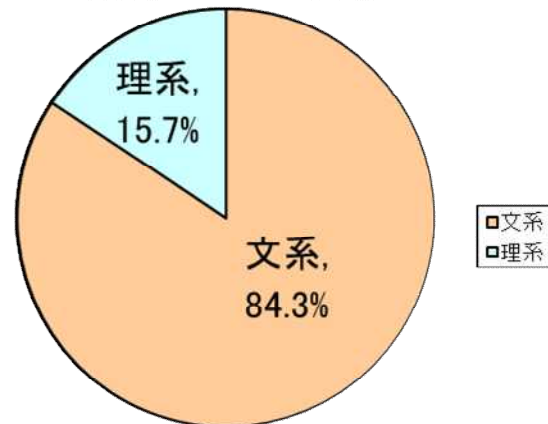
- 「**基礎力測定テスト**」試行版(2010年度実施)
 - テストの試験的实施
 - 「**基礎力測定テスト**」β版(2011年度)
 - テストと育成の連動・連関
 - 「**PROG**」製品版(2012年度)
 - テスト+育成プログラム
- 

PROG (Progress Report On Generic Skills)

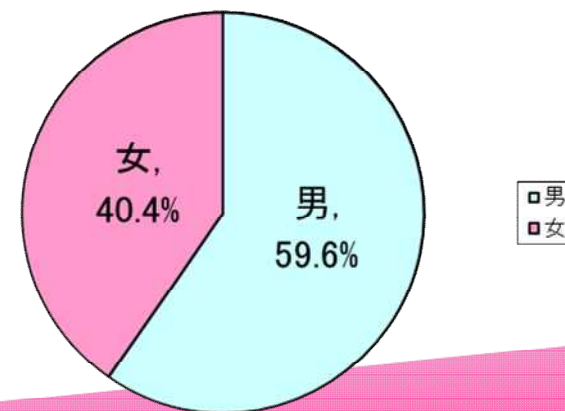
- 期日：2010年4月～2011年5月実施
 - 対象：大学生（※若干名の大学生以外も含む） 9290人
 - 団体申込み（※のべ大学数）：30大学 8674人
 - 個人申込み：616人（河合塾OB・OGが中心）
 - 早稲田大学、名古屋大学、京都大学、東京大学、大阪大学、中央大学、慶応大学、神戸大学、北海道大学他
- ※受験者数は、リテラシーテスト・コンピテンシーテストどちらか一方のみを受検している受験者も含む

■ 受検者のプロフィール

受検者プロフィール【文理】 N=9065

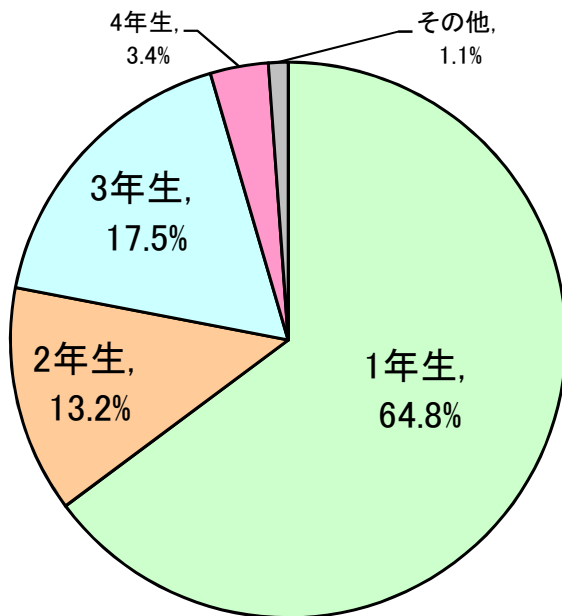


受検者プロフィール【性別】 N=9182



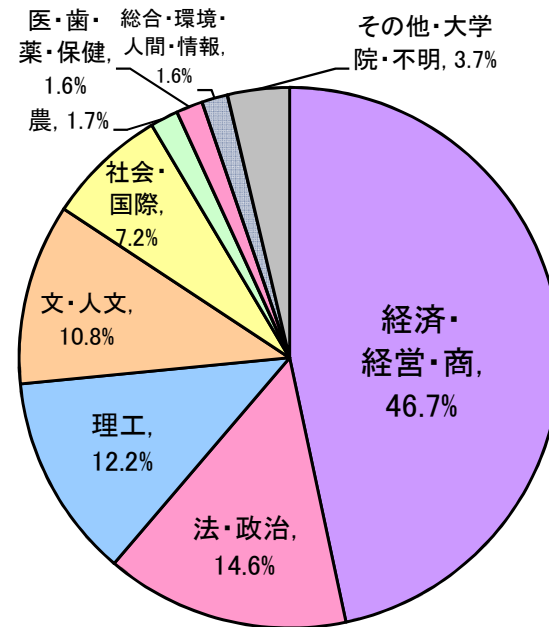
■ 受検者のプロフィール

<受検者の学年>



※個人、団体の回収した解答用紙を基に作成。受検者は解答時の学年を記入。
N=8948

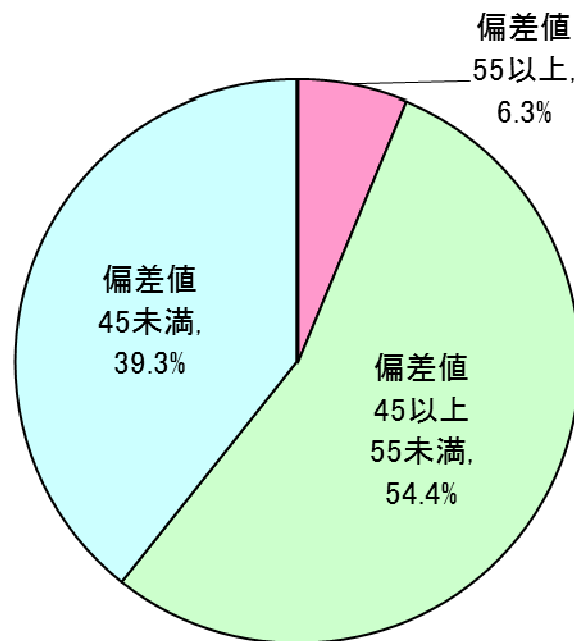
<受検者の学問系統>



※個人、団体の回収した解答用紙を基に作成。
N=9198

■ 受検者のプロフィール

＜受検者の入試偏差値レベル構成＞



※入試偏差値は河合塾のデータに基づき作成
所属している学部、学科に入試偏差値が設定されていない、および大学生でない受検者は除外
N=9101

2. リテラシー領域

2-1 測定項目の抽出

2-2 測定項目とサンプル問題

2-3 測定方法と測定結果

■ 「キーコンピテンシー」(OECD)

カテゴリー	コンピテンシーの内容	
カテゴリー1 相互作用的に道具を用いる	A 言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる B 知識や情報を相互作用的に用いる C 技術を相互作用的に用いる	対課題
カテゴリー2 異質な集団で交流する	A 他人とよい関係を作る B 協力する チームで働く C 争いを処理し、解決する	対人
カテゴリー3 自律的に活動する	A 大きな展望の中で活動する B 人生計画や個人的なプロジェクトを設計し実行する C 自らの権利、利害、限界やニーズを表明する	対自己

■ 「社会人基礎力」(経済産業省)

経産省 社会人基礎力(2006年)		
前に踏み出す力	主体性、働きかけ力、実行力	対自己
考え抜く力	課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力	対課題・対人
チームで働く力	柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力	対人

■ 「学士力」(文科省・中教審「学士課程教育」)

文科省(中教審「学士課程教育」) 学士力(2008年)	
知識・理解	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
汎用的技能	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、 情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力
態度・志向	自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、 市民としての社会的責任、生涯学習力
総合的な学習経験と創造的思考力	

■ 「学士力」の〈汎用的技能〉

1. コミュニケーションスキル

日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。

2. 数量的スキル

自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。

3. 情報リテラシー

ICTを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。

4. 論理的思考力

情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。

5. 問題解決力

問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる



■ 問題解決のプロセスと6つの力

⑥ 実行力

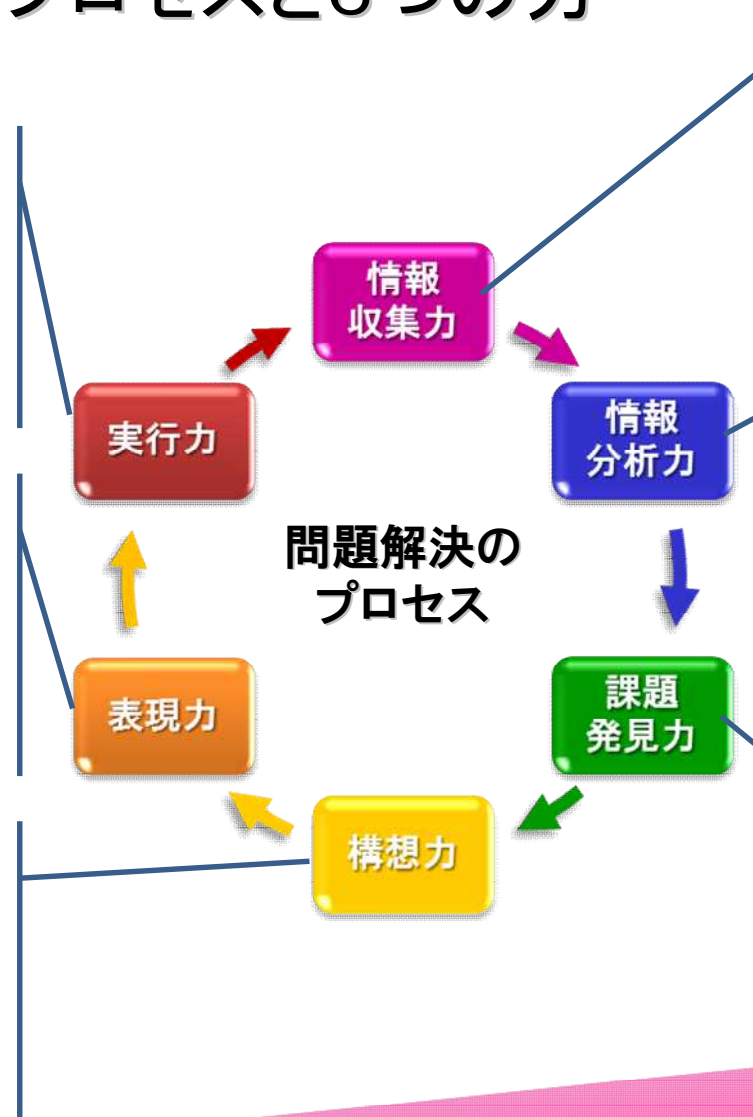
問題解決のプロセスを俯瞰し、解決策の実施をコントロールしながら問題解決を遂行し、それを評価する力

⑤ 表現力

状況や場面に即して、伝いたいことを伝いたい相手に、的確な手段を用いて伝える力

④ 構想力

さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その課程で想定されるリスクや対処方法を構想する力



① 情報収集力

課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理する力

② 情報分析力

事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的にかつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造を捉え、本質を見きわめる力

③ 課題発見力

さまざまな角度、広い視野から現象や現実を捉え、その背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力

■ 問題解決の6つの力の測定・評価

①情報収集力～④構想力

- ペーパーテストで「測定」可能
- 問題解決のプロセスに即し、状況や場面を具体的に設定し、知識を活用して、与えられた問題を解決する。
- 多肢選択＋短答式記述（答えが一つに収斂する）
- **PROGテスト**のために開発されたオリジナル問題

⑤表現力・⑥実行力

- パフォーマンス「評価」（現物や活動の評価）が妥当
- 提出課題、プレゼンなどをルーブリックを用いて評価する

※主な項目のみ記載
★「サンプル版」収録

①情報収集力

1. 情報源の特性を知る(二次情報の「検索」)★
 - 1) さまざまな情報源 ★
 - 2) インターネットで調べる ★
 - 3) 図書館で調べる

2. 情報を整理・保存する
 - 1) 講義を聴く(ノートテイキング)
 - 2) 情報をファイリングする

3. アンケートとインタビュー(一次情報の「調査」)
 - 1) アンケートを作成する
 - 2) インタビューを行う

サンプル版

ジェネリックスキル育成テキスト (リテラシー領域)

● このテキストの特長 ●

- 問題解決プロセスに即した構成
- 現実場面を想定した問題演習とわかりやすい解説
- 学生の自学自習、初年次ゼミなどの教材にも最適



ご興味をお持ちくださった方は、この表紙の裏「お問い合わせ先」までご連絡ください。

河合塾

配付資料
「ジェネリック育成テキスト」
(サンプル版)4～5ページを
ご参照ください。

①情報収集力

パンフレット参照

問題のサンプル

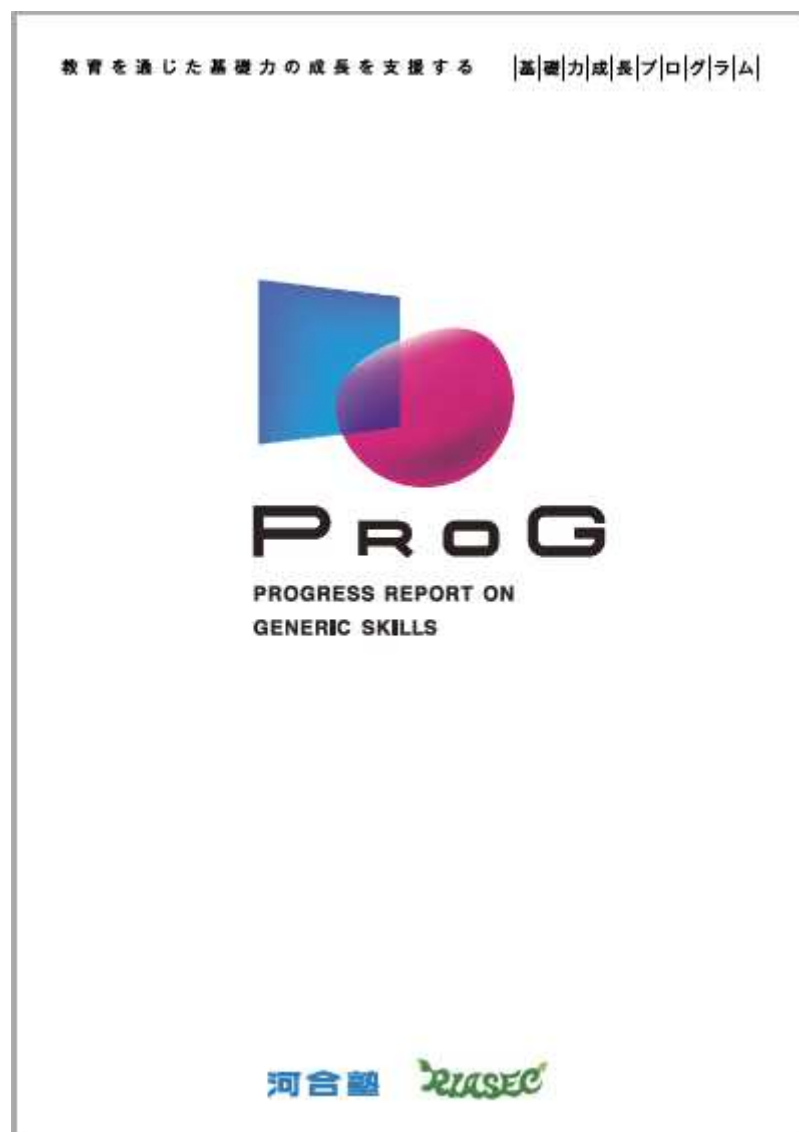
あなたは、ある携帯電話の販売店Xの店長です。Xでは、最近売り上げが落ちてきているので、来店者へのアンケートを作成・実施することになり、店員全員でアンケートの質問と回答の選択肢を考えることにしました。作成会議の際、店員Bさんからは次のような案が出されました。

質問：当店の雰囲気と店員の対応はどうでしたか？

回答：A.不満 B.やや不満 C.普通 D.やや満足 E.満足 F.たいへん満足

この案に対する指摘として最も適切なものを、①～⑤の中から1つ選んでください。

- ① 質問で何を聞こうとしているのかがはっきりしない。
- ② 質問を丁寧語にする必要はない。
- ③ 回答で、「不満」と「満足」とのバランスがおかしい。
- ④ 「普通」という選択肢はやめた方がよい。
- ⑤ 選択肢が6個もあるのは多すぎる。



配付資料
「PROG」ご紹介パンフレット
3～4ページをご参照ください。

※主な項目のみ記載
★「サンプル版」収録

②情報分析力

1. データ・グラフを読む ★

- 1) 図表とグラフの種類と特性 ★
- 2) グラフの「読み取り」と「分析」のポイント ★
- 3) 複数のデータから読み取れることを統合する

※SPI「非言語領域」の内容を含む

2. 文献・資料を読む

- 1) 書かれている内容を客観的に捉える
- 2) 文脈や全体構造を理解し、図化し、要約する

※SPI「言語領域」の内容を含む

3. 批判的・多角的に読む

- 1) 情報を複眼的な視点から多角的に考察する
- 2) 事実・意味・論証の検証を行う

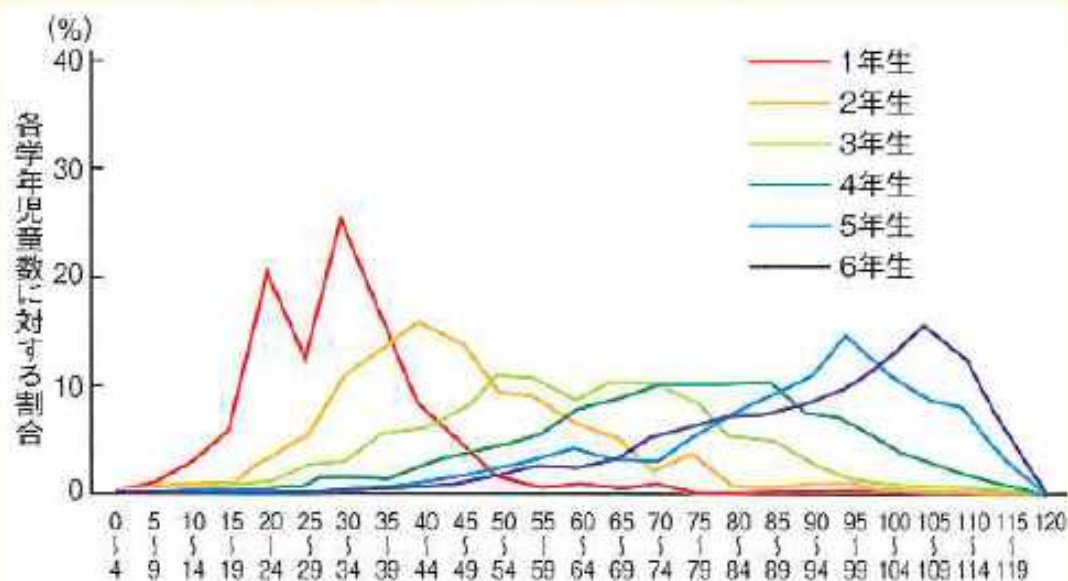
②情報分析力

パンフレット参照

問題のサンプル

右のグラフは小学校における学年ごとの国語学力の伸長を示したものです。このグラフに関する見解として正しいものを①～⑤の中から1つ選んでください。

- ① 3年生では学力の二極化が顕著に見られる。
- ② 1年生の学力差は就学前の学習量が原因と考えられる。
- ③ 学年が進むにつれ学力が平均化する傾向が見られる。
- ④ 3年生以降、生徒の学力は伸び悩む傾向が見られる。
- ⑤ 学年が進むにつれて学力の格差が広がっている。



◎図9-1 小学校国語学力到達テスト(読解)の得点分布(天野・黒須, 1992)

(『文章理解の心理学』大村彰道監修 村田喜代美 久野正樹編 北大路書房p135)

※主な項目のみ記載
★「サンプル版」収録

③課題発見力

1. 広い視点から問題を洗い出す ★

- 1) ブレインストーミングで発想を広げる ★
- 2) フレームワークで考える ★

2. 洗い出した問題を整理・分類する

- 1) 親和図法などを用いて、情報を分類・結合し、階層化・構造化する
- 2) 構造化された情報をもとに、さらにその原因や背景を追求する

3) 解決すべき課題を設定する

- 1) 隠れた問題点や解決すべき問題を発見する
- 2) 解決すべき課題を設定する

③課題発見力

パンフレット参照

問題のサンプル

A君は自分の日頃の行動をふり返り、「問題解決のための4つの力～情報収集力・情報分析力・課題発見力・構想力」に即して、自分の強み・弱みを考えようとしています。以下①～⑤は、A君の日頃の行動パターンです。A君の行動パターンをふまえ、A君の一番の強み・一番の弱みを4つの力の中からあげてください。

- ① わからないことは、まずはインターネットで調べ、その概要をつかむようにしている。
- ② つい完璧を求め、理想的な解決策を打ち出すことが多く、「絵に書いた餅」となることが多い。
- ③ 研究室を決める際は、先輩や担当教官にじかに会って、話を聞くようにした。
- ④ 読んだ本は、タイトル・筆者・出版社と簡単な感想を書きとめ、データベース化している。
- ⑤ 問題解決のために、あれもこれもやろうとして、結局なにもできなくなってしまうことがある。

※主な項目のみ記載
★「サンプル版」収録

④ 構想力

1. 広い視野から解決策を考える ★
 - 1) チェックリスト法などを用いて、自由に発想する
2. 現実味のある解決策を選択する
 - 1) ロジックツリーなどを用いて、解決策を構築する
 - 2) マトリックスなどを用いて、優先順位などを整理する
- 3) 行動計画を立てる
 - 1) 必要な作業を漏れなく洗い出す
 - 2) 具体的な行動計画を作成し、リスクを考える

④構想力

パンフレット参照

問題のサンプル

Aさんは大学2年生で、中学2年生のB君の従兄です。2学期の中間試験後のある日、B君から以下のような相談を受けました。有効な解決策を提案するためのAさんの行動として不適切なものを、①～⑤のうちから選んでください(1つとは限らない)。

最近学校の成績が下がっている。母親は部活をやめて塾に行くように言う。自分も県立トップのX高校には何としても行きたいと思っているので、成績の低下は何とかしたいが、部活は楽しいしせっかくここまで頑張ってきたので、やめたくはない。

- ① 成績が下がっている教科を確かめ、その教科のみ家庭教師を頼む方法もあると伝えた。
- ② 部活は高校でもできるので、部活をやめて勉強時間を増やすべきだとアドバイスした。
- ③ どのような勉強の仕方をしているのかを確認し、勉強の仕方についてアドバイスした。
- ④ 部活と勉強を両立したAさん自身の経験を話し、勉強も部活も頑張るように励ました。
- ⑤ 1週間の行動を書き出し、塾のスケジュールと照らし合わせて検討するように言った。

※主な項目のみ記載

【参考】

⑤表現力【書く】

1. レポートを作成する

- 1) 問いを立てる(テーマを絞り込む)
- 2) アウトラインをつくる

※「情報収集力」～「構想力」までの内容を応用する

2) 明瞭簡潔な文章を書く

- 1) パラグラフライティングの手法で書く
- 2) 文章表現、表記のルールを踏まえて書く
- 3) 読み手を意識して推敲する
- 4) 互いに批評する

※主な項目のみ記載

【参考】**⑤表現力【話す】**

1. 自分の考えを伝える

- 1) 事実を伝える
- 2) 自分の考え・意見を述べる

2) プレゼンテーションを行う

- 1) スライドやレジュメをつくる
※「情報収集力」～「構想力」、及び「アウトラインの作成」までの内容を応用する
- 2) プレゼンテーションの表現テクニックを磨く

※主な項目のみ記載

【参考】**⑤表現力 【話し合う】****1) 会議を行う**

- 1) 会議を準備する(アジェンダを作成する)
- 2) 会議を進行させる
- 3) 相手の話を聴き、自分の考えを述べる
- 4) 議事録を作成する

2) 創造的・建設的な議論を行う

- 1) ゴールを共有する
- 2) 異質な他者の考えに耳を傾ける
- 3) 発言者の背景、価値観に迫る質問をする
- 4) 互いに触発し合い、創造的建設的な議論をする

※主な項目のみ記載

【参考】

⑥実行力

1. 問題解決のプロセスとPDCA

- 1) PDCA (Plan-Do-Check-Action)をまわす
- 2) 実行の過程をモニターし、コントロールする
- 3) 問題があれば解決策を考えて修正する
- 4) 完了するまでやり切る

2) メタ認知能力

- 1) メタ認知ができるようにする(自他の状況をモニターし、振り返る)
- 2) 常に成長し続ける力を獲得する → ジェネリックスキルの肝!

■ 問題の所在

- 概念形成は進みつつある



- 評価のスタンダードが存在しない

- TOEIC → IRT(項目応答理論)に基づくスコアー
- 英検 → 学年進行の基準



- 到達点を示しつつレベル評価する必要性



- ニューラルテスト理論で事後的にスタンダード化する

■ 荘島宏二郎 (大学入試センター、東京工業大学)

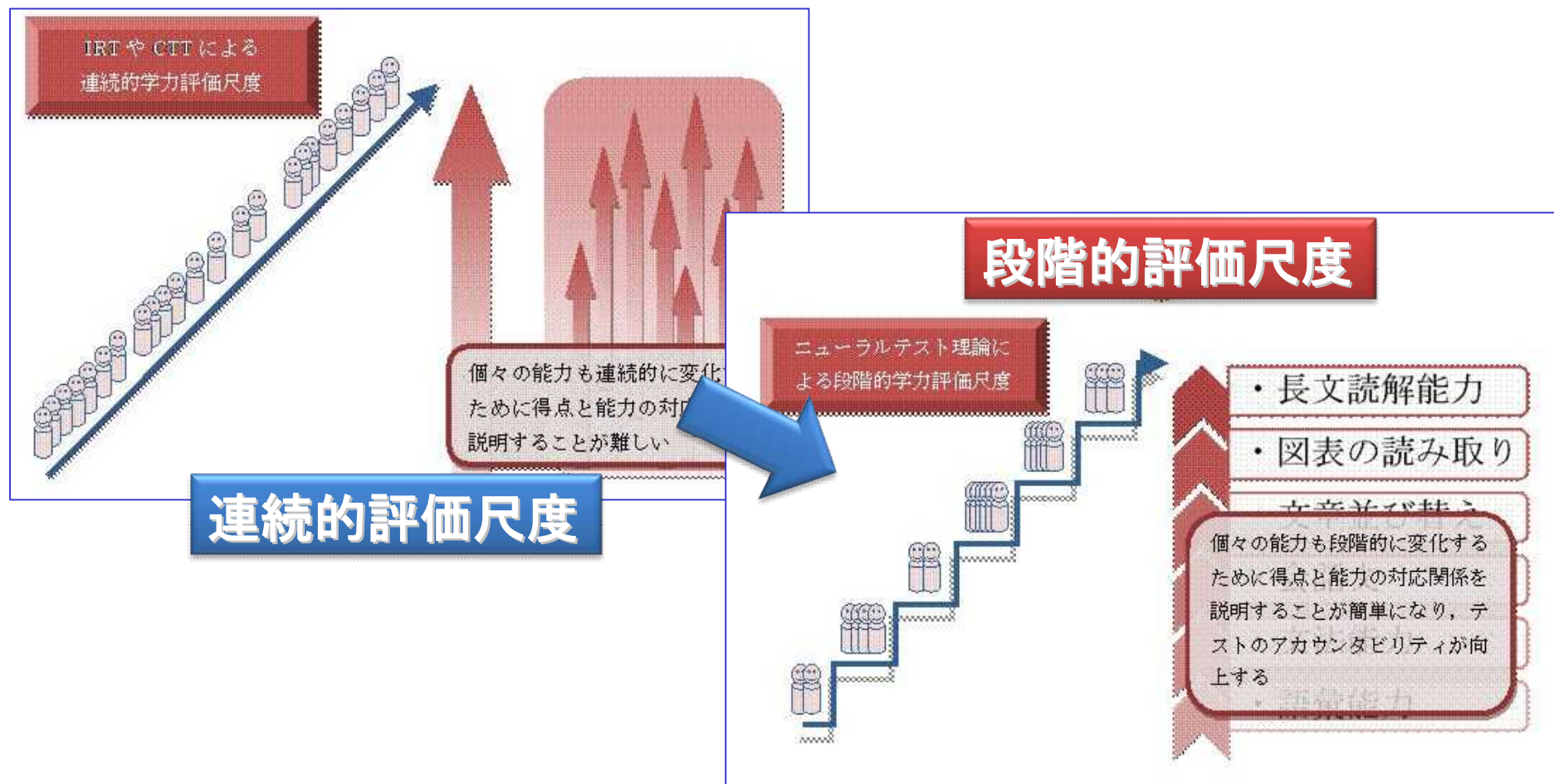
解像度 (Resolution)

- 2つ以上のモノの差異を検出する力
- 体重計
 - **ほとんど同じ** 体重をもつ2人の違いを見抜くことが可能
 - **ほぼ間違いなく** キログラム尺度上で人々を並び替えることが可能
- テスト
 - **大体同じ** 能力を持つ2人の違いを見抜くことができない
 - 人々を正確に並び替えることが不可能
- テストは、受検者をいくつかのレベルに段階付けるくらいがせいぜい

9

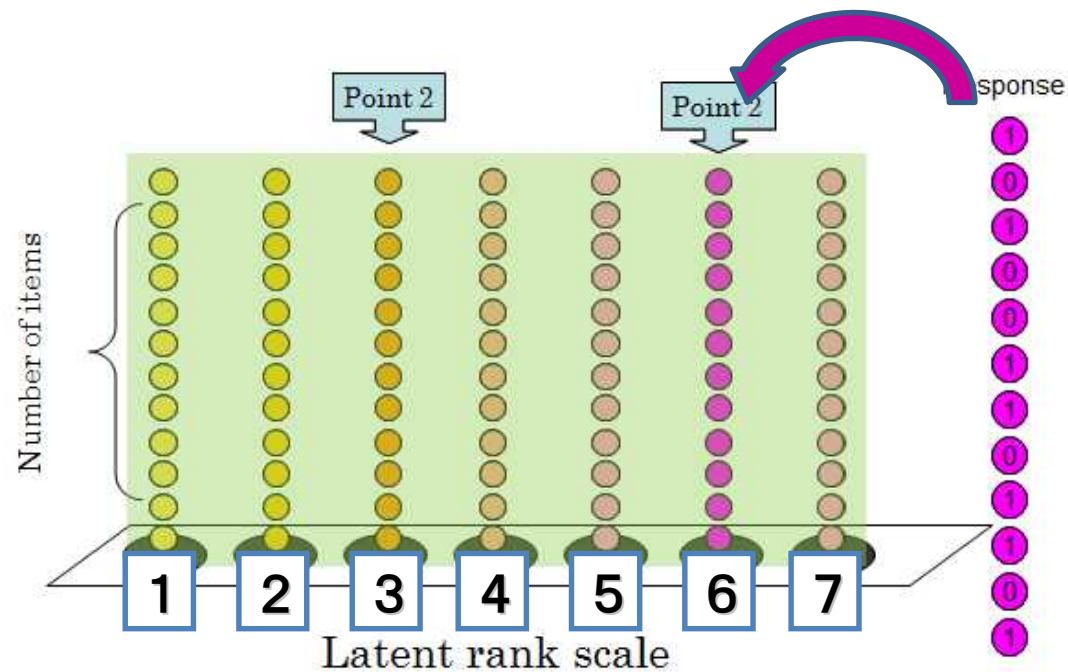
荘島宏二郎 <http://www.rd.dnc.ac.jp/~shojima/ntt/jindex.htm> 2011/08/22閲覧

■ 荘島宏二郎「ニューラルテスト理論 (NTT)」



荘島宏二郎 <http://www.rd.dnc.ac.jp/~shojima/ntt/jindex.htm> 2011/08/22閲覧

■ ニューラルテスト理論による事後的なランクの推定



解答結果をランク毎にパターン化し、
 解答者がどのランクのパターンに
 近いかを推定することで、
解答者のランク所属確率を計算する。

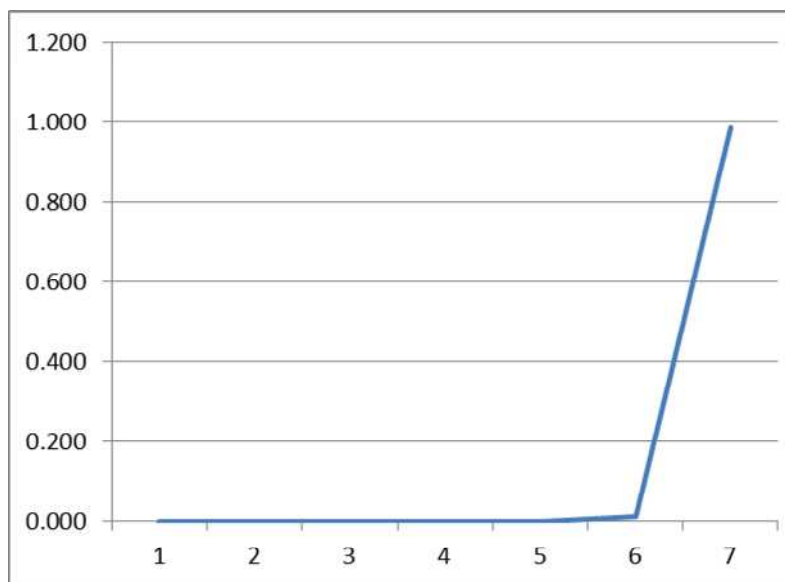
■ 全解答結果から受検者を**7ランク**に分類

庄島宏二郎 <http://www.rd.dnc.ac.jp/~shojima/ntt/jindex.htm> 2011/08/22閲覧

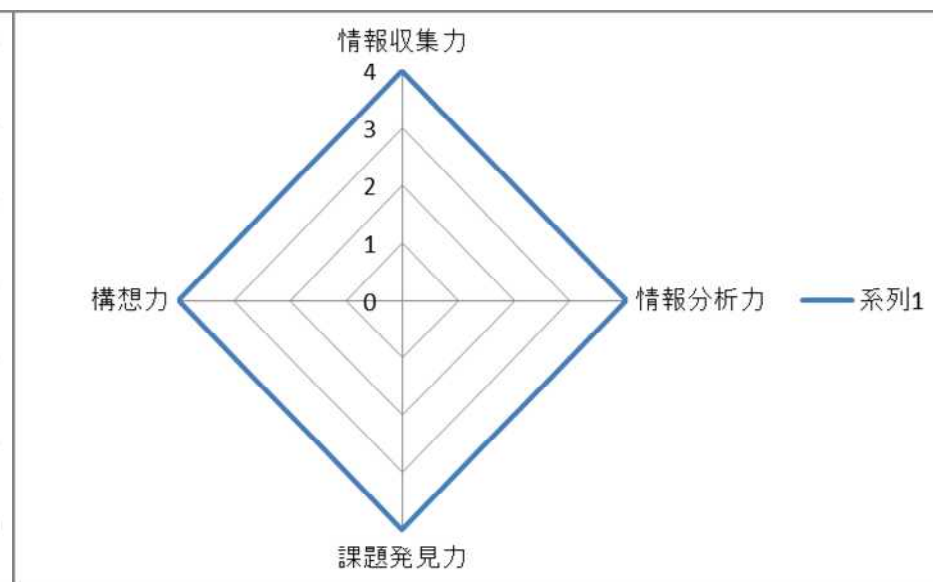
■ ニューラルテスト理論による個人の能力把握

■ A大学3年生

問題解決力の総合ランク所属確率



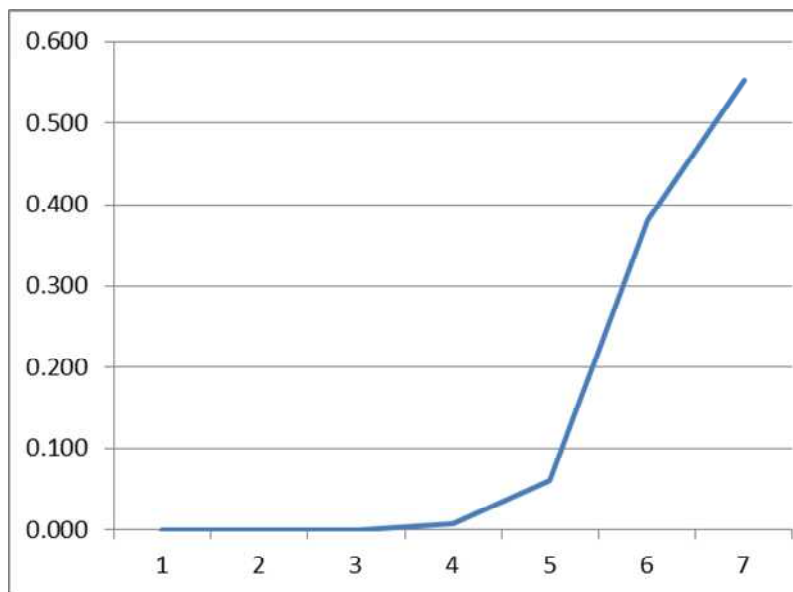
4つ力のランク所属確率



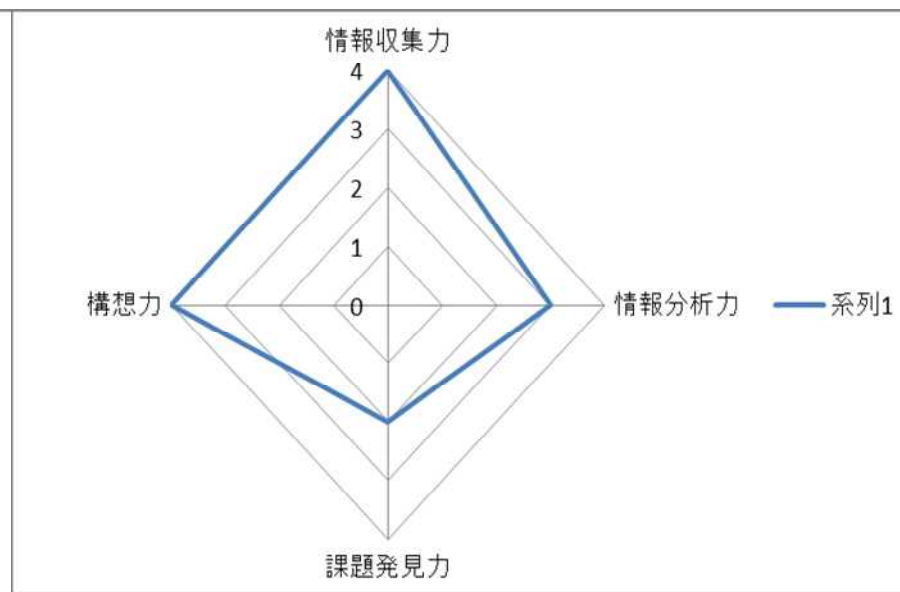
■ ニューラルテスト理論による個人の能力把握

■ B大学3年生

問題解決力の総合ランク所属確率



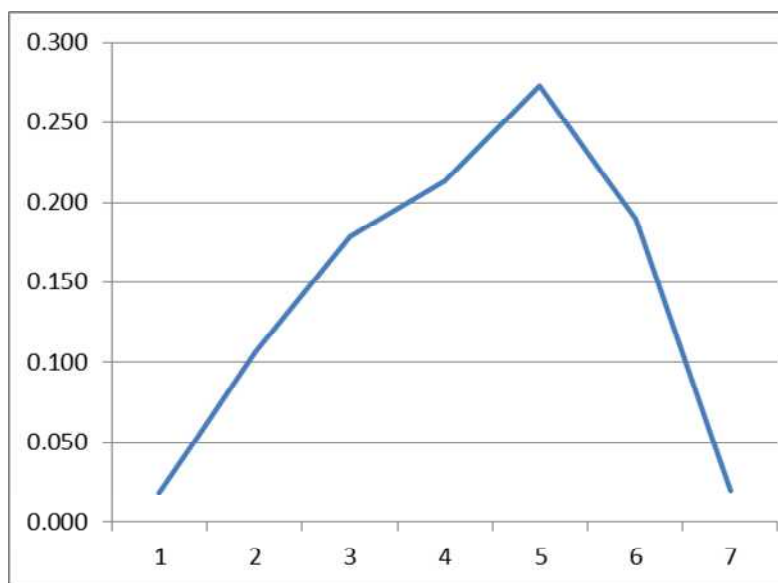
4つ力のランク所属確率



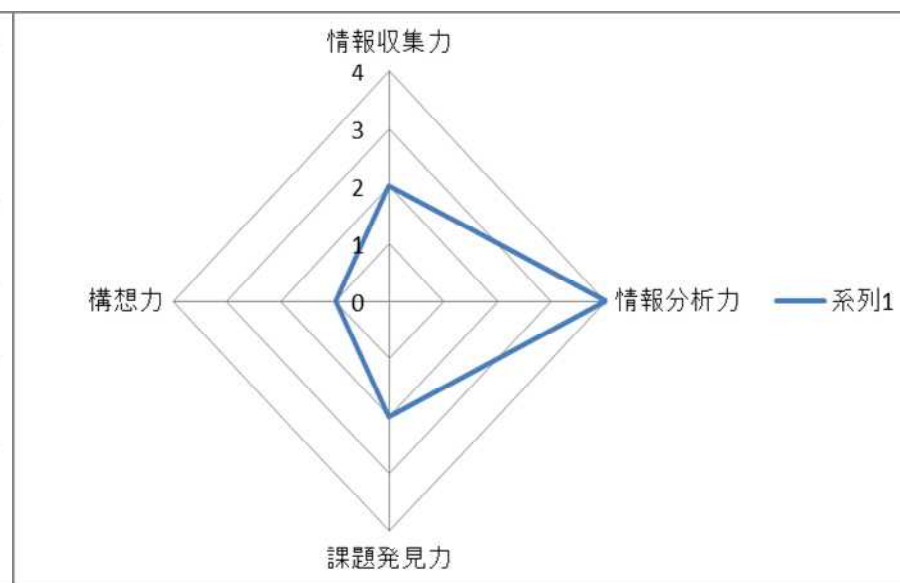
■ ニューラルテスト理論による個人の能力把握

■ C大学3年生

問題解決力の総合ランク所属確率



4つ力のランク所属確率



■ Can-Do-Chartの作成

- 項目参照プロフィールの生成



- ランク毎のテスト問題を言語化する

- 各ランクに所属する問題群からランクの性質を記述



- Can-Do-Chartの作成しテストの説明責任を明確にする



- ジェネリックスキルの段階的評価のスタンダード化

- 実態に即した基準の作成

ランク	問題解決力のCan-Do-Chart
1	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な手段をもちいて、調べたい情報をさがすことができる。 ・目の前で起きている問題が何であるかを理解できる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前で起きている問題を解決するための大まかな方向性は理解できる。 ・目の前で起きている問題について、あるべき姿を想像することができる。 ・日常的な出来事の利害関係を理解し、問題を解決する糸口を理解することができる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用した情報収集の利便性と問題点を理解している。 ・日常的な出来事について、上位概念と下位概念の区別することができる。 ・日常的な出来事について、出来事の前後関係を推測することができる。 ・日常的な出来事を、一定の観点にしたがって整理・分類することができる。 ・レポートを書くための手順を理解している。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な事柄について調査するとき、調査すべきデータの項目間の関係を理解することができる。 ・日常的な概念について、概念とその機能・役割を対応させることができる。 ・グラフから読み取れる客観的な事実を指摘することができる。 ・前後関係を理解しながら文章を読むことができる。 ・段階をおって論理をつなげることができる。 ・日常的な出来事について、自他を取り巻く環境について判断することができる。 ・日常的なテーマについて議論するとき、議論を組みたる順序を整理することができる。 ・日常的な出来事について、それを実行する際のリスクを想像することができる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な出来事を、分野別に整理・分類することができる。 ・社会的な出来事について、因果関係を想定することができる。 ・情報間の関係を整理して、結果を推論することができる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・出来事の数的な関係を整理し、結果を推論することができる。 ・出来事について、与えられた情報をもとに、周辺状況を想像することができる。 ・出来事について、隠れた本質を見抜くことができる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワード間の関係を整理して、的確にキーワード検索することができる。 ・文章を理解し、内容を構造化して、図示することができる。 ・グラフから得られた情報をもとに、出来事を構造化し、図示することができる。 ・グラフから得られた情報をもとに、因果関係を推論することができる。 ・出来事について、レイヤーをそろえて解決策を構想することができる。 ・出来事の構造を見抜き、主たる論点を抽出することができる。

初年次(2年次)
到達レベル

学士課程
到達レベル

3. コンピテンシー領域

3-1 測定項目の抽出

3-2 質問項目における工夫

3-3 採点方法における工夫

コンピテンス

ホワイト(1959)によって定義された「環境と効果的に相互作用する有機体(人など)の能力」。単に「できる」「できない」ではなく、環境に対して主体的に適応することと、環境に働きかけて変えゆくことの両方の意味を備えている。

コンピテンシー

「社会的活動の成果を予測する」ものとしてマクレランド(1973)が提唱した能力概念。米国国務省などとの共同研究を通じて、「業績にあげる人には、学歴・資格・知識とは関係なく共通する特徴があることが発見された。以降、ビジネスの世界では「高業績者に共通する一貫性を持って示される行動特性」とされることが多い。

■ 発見された3つの特性

- ① 異文化対応の対人感受性、② 他者に対して前向きな期待を抱くこと
- ③ 政治的ネットワークをすばやく学ぶこと

■ 1990年以降 アメリカや日本で企業の人事評価に多数導入される

実践的環境交渉力

(周囲と相互に影響し合う力:モデルの行動特性や意思決定基準と比較することで見る)

2000年以降に実施された9種類のアンケートについて項目を調査 全407の項目カードを抽出した

大阪におけるキャリア教育 (大阪商工会議所)	若者が自立できる社会へ (経済同友会)	企業が求める人材の能力など に関する調査(厚生労働省)	人材ニーズ調査 (経済産業省)
摩擦や競争を避けず 自分の考え・意見を 伝える	協調性	自分とは異なる考え を理解する能力	先入観を持たずに相 手の話を受け止め、 信頼構築に役立て ることができる
人に関心があり 世代や価値観を 越えてコミュニケー ションする	環境適応力	誠実さ	自分の所属する組 織・チーム全体の業 績や成長を意識した 行動ができる
組織の一員として の役割を果たす	忍耐力	自分の意見をはっき りと主張すること	立場や状況に応じて 自分の感情をコント ロールし、ストレスや プレッシャーに負けず に行動できる
目標を高く掲げて 誠実に努力して 達成している	責任感	リーダーシップを発揮 すること	
	課題発見能力	自分の責任で決定 を下す能力	
	問題解決能力		
⋮	⋮	⋮	⋮
RIASEC			48

■ 求人広告から確認した基礎力

リクナビ掲載企業のうち、32業種計960社の選考基準のテキスト分析

PROGのコンピテンシー (リクルートと共同定義した基礎力)		内容
●対課題基礎力	課題発見力	問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う
	計画立案力	課題解決のための効果的な計画を立てる
	実践力	効果的な計画に沿った実践行動をとる
●対人基礎力	親和力	円満な人間関係を築く
	協働力	協力的に仕事を進める
	統率力	場をよみ、目標に向かって組織を動かす
●對自己基礎力	感情制御力	仕事場面での気持ちの揺れをコントロールする
	自信創出力	ポジティブな考え方やモチベーションを維持する
	行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける(学習行動を含む)

掲載件数
555件
124件
141件
65件
206件
469件
131件
88件
635件

発達段階を考慮した項目の細分化

基礎力	内容	← 発達段階に応じた習得レベル →			
		小～中～高	大学～新入社員	20代～30代前半	
●対課題基礎力	課題発見力	課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	情報収集	本質理解	原因追求
	計画立案力	課題解決のための適切な計画を立てる	目標設定	シナリオ構築	計画評価 リスク分析
	実践力	実践行動をとる	行動を起こす	修正・調整	検証・改善
●対人基礎力	親和力	他社との豊かな関係を築く	親しみ易さ 気を配る	対人興味 共感・受容 多様性理解	人脈形成 信頼構築
	協働力	目標に向けて協力的に仕事を進める	役割理解 連携行動	情報共有 相互支援	相談、指導 他者の動機づけ
	統率力	場をよみ、組織を動かす	話し合う・ 意見を主張する	建設的・創造的な 討議	意見の調整、交渉、 説得
●對自己基礎力	感情制御力	気持ちの揺れを制御する	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント
	自信創出力	前向きな考え方や、やる気を維持する	独自性理解	自己効力感 楽観性	学習視点 機会による自己変革
	行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化

3-1 測定項目の抽出

発達段階を考慮した項目の細分化

尺度	詳細尺度	定義	
対課題基礎力	課題発見力	情報収集	必要な情報を適切な方法で収集する
		本質理解	客観的な事実に基づき、本質を見極める (因果関係を分析する)
		原因追究	さまざまな角度から課題を追求し、原因を明らかにする (「何故」を繰り返し、原因を深く考える)
	計画立案力	目標設定	ゴールイメージを明確にして、目標をたてる
		シナリオ構築	目標の実現に向けたシナリオを描く
		計画評価	目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てる
		リスク分析	幅広い視点からリスクを想定し、事前に対策を講じる
	実践力	実践行動	自ら行動を起こす
		修正/調整	行動しながら適宜、内容に修正や微調整を加える
		検証/改善	結果を検証し、次への改善につなげる
対人基礎力	親和力	親しみやすさ	話しかけやすい雰囲気を作る
		気配り	相手の立場に立って思いやる
		対人興味/共感・受容	他者に興味を持つ 他者の話に関心し、受け入れる
		多様性理解	多様な価値観を尊重する
		人脈形成	有効な人間関係を築き、継続する
		信頼構築	他者を信頼する、他者から信頼される

尺度	詳細尺度	定義		
対人基礎力	協働力	役割理解/連携行動	自己や他者の役割を理解する 互いに連携・協力して物事を進める	
		情報共有	一緒に物事を進める人と情報を共有(報告 連絡 相談)する	
		相互支援	他者の状況を理解し、足りないところを補完し合う (互いに力を貸して助け合う)	
		相談、指導/他者の動機づけ	他者の相談にのり、アドバイスする 他者に働きかけ、やる気にさせる	
	統率力	話しあう	相手に合わせて、自分の考えを分かりやすく述べる (自分の意見を筋道を立てて話す)	
		意見を主張する	集団の中で自分の意見を主張する (いかなる場でも自分の意見を臆せず述べる)	
		建設的・創造的な討議	他者の意見をふまえた建設的な討議や、新たな視点を加えた討議をする	
		意見の調整、交渉、説得	異なる意見を調整し、合意を形成する 他者と交渉し、説得する	
	対自己基礎力	感情制御力	セルフアウェアネス	自分の感情や気持ちを理解し、自分の言動をコントロールする
			ストレスコーピング	自分にあったストレス処理の方法を知っている
ストレスマネジメント			緊張感やプレッシャーを力に変える	
自信創出力		独自性理解	他者と自己の違いを認め、自分の強みを認識する	
		自己効力感/楽観性	自分に自信を持つ やればできるという予測や確信を持つ	
		学習視点/機会による自己変革	常に何かを学ぼうとする視点を持つ 経験の機会をうまくとらえ、自己の変革に活かす	
行動持続力	主体的行動	自分の意志や判断において自ら進んで行動する		
	完遂	一度決めたことはやりきる (粘り強く取り組む)		
	良い行動の習慣化	自分なりのやり方を見出し、習慣化する (学んだことを実践し定着させる)		

①両側選択形式

連番	A	B
1	初対面の人と話すときでも、相手と距離をおかず親しく接する	初対面の人と話すときには、距離をとって礼儀正しく接する
2	人に接するときは、壁をつくらず本音で会話する	人に接するときには、礼儀を大切にして丁寧話す
3	感情に流されず、客観的な状況を分析して判断を下してきた	客観的な情報よりも、人の気持ちや人間関係に配慮して判断を下してきた
4	チームでものごとに取り組むときには、自分から率先して行動してきた	チームで物事に取り組むときには、周りに合わせて行動してきた
5	多少失礼だと思われても、相手の懐に飛び込んでいく	失礼のないように、慎重に言葉を選んで話す
6	おせっかいだと思われても、周りにいろいろと気を回す	相手の自尊心を傷つけないように、必要以上に余計な世話は焼かない

②場面想定式(短文)

連番	項目	選択肢	低← 経験値 →高				
1	チームで作業に取り組むとき、一人だけ手を抜いているように思える人がいたら、あなたはどのように行動することが多いですか。	A 何か困っているのではないかと声をかける	1	2	3	4	5
		B 真剣に作業に取り組むように注意する	1	2	3	4	5
		C 黙って自分の作業に集中する	1	2	3	4	5
		D 一緒に頑張ろうと励ます	1	2	3	4	5

設問

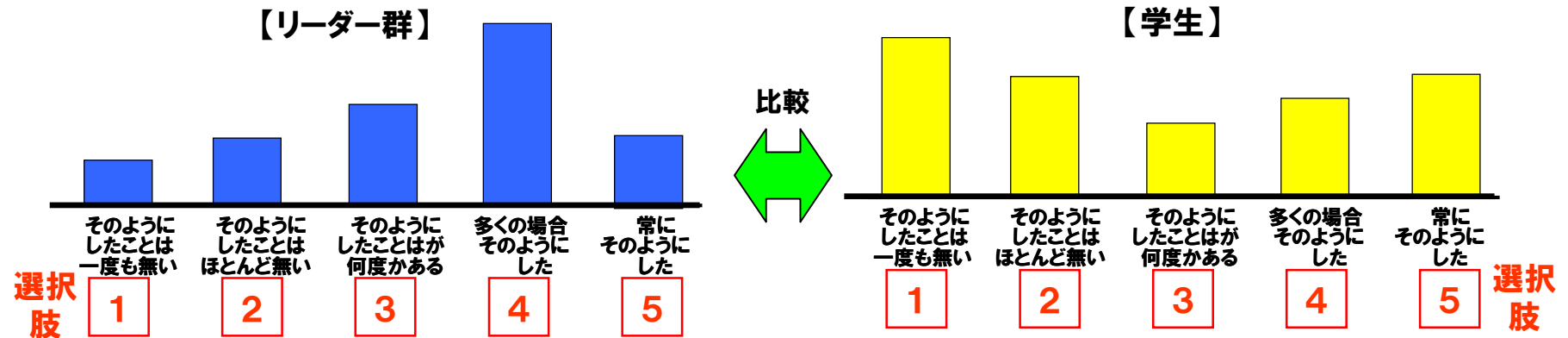
③場面想定式(長文)

あなたは会社から新商品の企画開発のリーダーを任されています。あなたの部下の一人が、面白い新商品のアイデアをもってきました。ただし、この商品はあなたの会社だけでは商品化が難しく、販売力のある大手企業X社、技術力のあるベンチャー企業Y社の協力をどうしても取り付ける必要があります。ところが、あなたにはX社、Y社との人脈はなく、会社としてもこれまで取引がありません。あなたなら、どのように行動しますか。次のAからEのなかからから あなたの考えに1番近いもの、2番目に近いものをそれぞれ選びなさい。

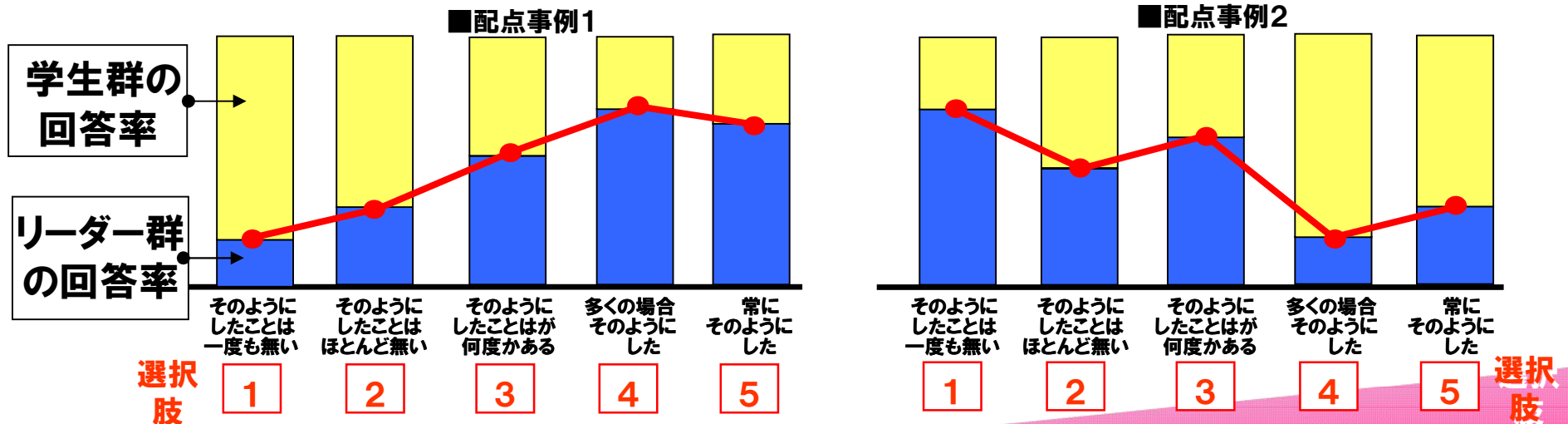
選択肢

- A 部下に、発想は面白いが現実的には開発が難しいことを丁寧に伝える
- B 部下に、面白い発想なので現実的な開発方法を考えるように指示する
- C アイデアを預かっておくことを部下に伝え、機が熟するのを待つ
- D 知人を通じてX社、Y社にアプローチできないか考える
- E すぐにY社に連絡をして協力を打診する

リーダー群と学生の回答のパターンを比較し、統計的に違いがある設問項目を抽出する(特性抽出)



リーダー群と学生の回答比率から選択肢の配点を計算する(モデル化)



4. 分析結果—信頼性と妥当性—

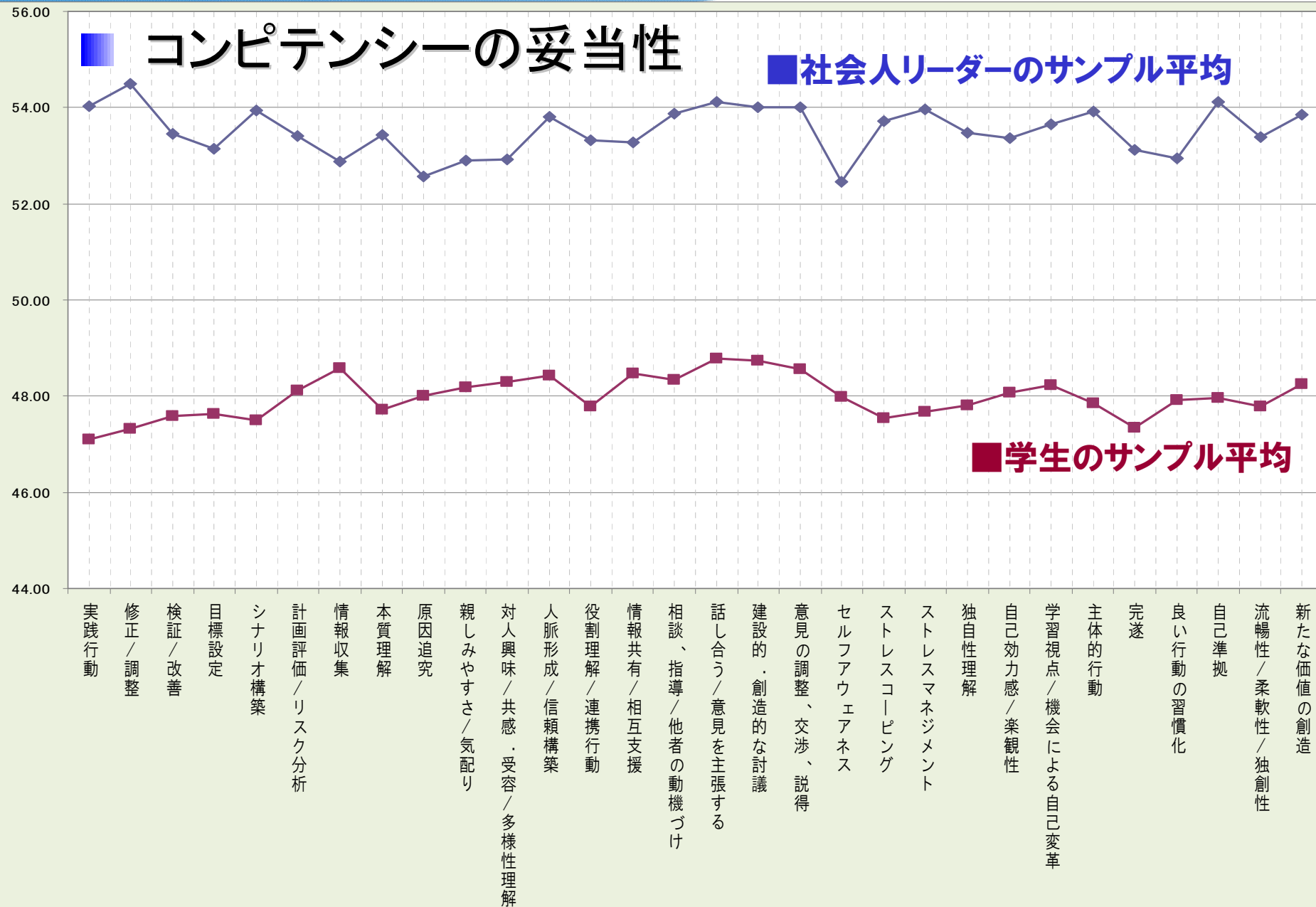
4-1 受検者の全体的傾向

4-2 金沢工業大学の事例から

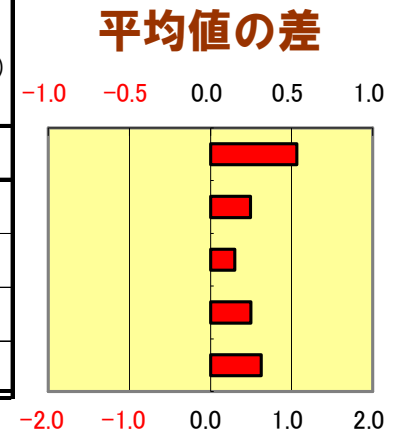
■ 信頼性係数

	信頼性係数 (α)
リテラシー(問題解決力_総合)	0.78

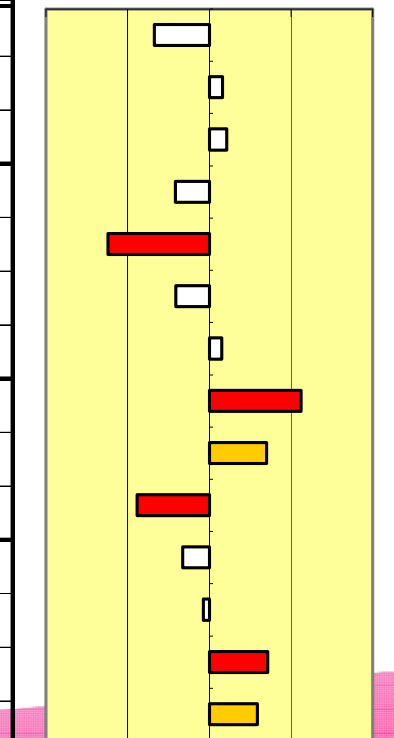
コンピテンシー	対課題 基礎力	課題発見力	0.80
		計画立案力	0.83
		実践力	0.79
	対人 基礎力	親和力	0.83
		協働力	0.86
		統率力	0.88
	対自己 基礎力	感情制御力	0.79
		自信創出力	0.82
		行動持続力	0.75



男女		女性 (3706名)	男性 (5476名)	平均値差 (女性-男性)	
		平均値	平均値		
リテラシー	問題解決力	問題解決力_総合	4.26	3.73	0.53
		情報収集力	2.62	2.38	0.25
		情報分析力	2.57	2.42	0.15
		課題発見力	2.62	2.37	0.25
		構想力	2.66	2.35	0.31



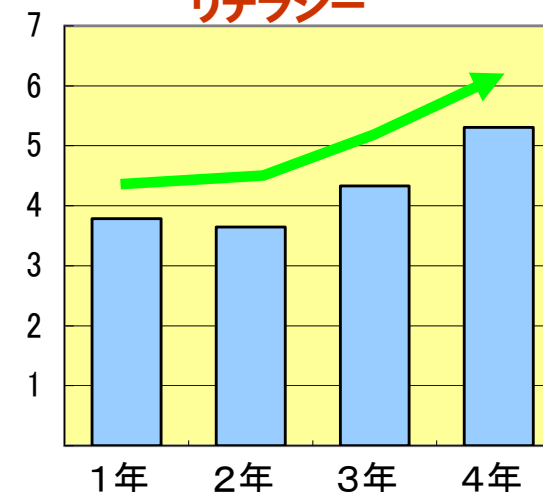
コンピテンシー (標準得点)	総合	問題解決力_総合	49.86	50.53	-0.67
		コミュニケーションカ・マネジメントカ_総合	50.25	50.09	0.16
		自己管理能力_総合	50.24	50.03	0.22
	問題解決力	情報収集力	49.93	50.35	-0.41
		情報分析力	49.56	50.81	-1.24
		課題発見力	50.17	50.58	-0.41
		構想力	50.11	49.96	0.15
	コミュニケーションカ・マネジメントカ	親和力	50.83	49.71	1.12
		協働力	50.46	49.75	0.70
		統率力	49.67	50.55	-0.88
	自己管理能力	感情制御力	50.02	50.34	-0.33
		自信創出力	50.14	50.21	-0.07
		行動持続力	50.25	49.54	0.72
		実行力(実践力)	50.52	49.93	0.59



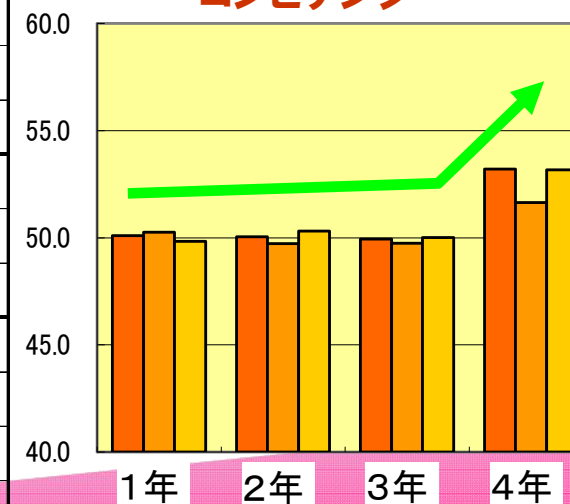
		学年	1年生 (5799名)	2年生 (1182名)	3年生 (1562名)	4年生 (302名)
			平均値	平均値	平均値	平均値
リテラシー	問題解決力	問題解決力_総合	3.78	3.65	4.33	5.30
		情報収集力	2.43	2.38	2.60	2.88
		情報分析力	2.40	2.36	2.62	3.17
		課題発見力	2.40	2.39	2.66	2.97
		構想力	2.43	2.32	2.63	2.84

コンピテンシー (標準得点)	総合	問題解決力_総合	50.10	50.05	49.93	53.20
		コミュニケーション力・マネジメント力_総合	50.25	49.72	49.75	51.64
		自己管理能力_総合	49.83	50.32	50.01	53.16
	問題解決力	情報収集力	50.06	50.23	49.90	52.00
		情報分析力	50.25	49.84	50.06	52.67
		課題発見力	50.15	50.48	50.48	52.82
		構想力	49.92	50.17	49.57	51.79
	コミュニケーション力・マネジメント力	親和力	50.22	50.07	49.73	51.99
		協働力	50.21	49.41	49.57	51.27
		統率力	50.20	49.84	50.09	51.21
	自己管理能力	感情制御力	50.01	50.51	49.95	52.00
		自信創出力	49.89	50.49	50.23	52.32
		行動持続力	49.74	50.01	49.36	52.18
実行力(実践力)		49.86	50.23	50.40	53.13	

平均値の経年比較
リテラシー



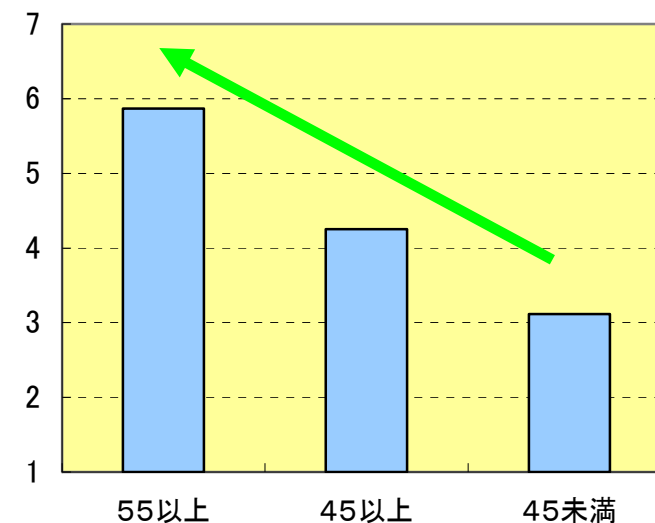
コンピテンシー



■ 入試難易度

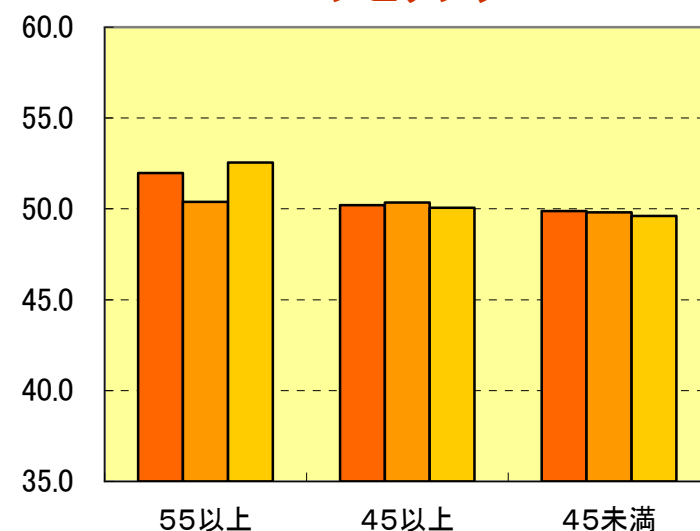
		偏差値 55以上 (571名)	偏差値 45~55 (4952名)	偏差値 45未満 (3578名)
		平均値	平均値	平均値
リテラシー	問題解決力_総合	5.87	4.25	3.11
	情報収集力	3.11	2.55	2.25
	情報分析力	3.46	2.62	2.08
	課題発見力	3.06	2.61	2.17
	構想力	3.11	2.64	2.10

平均値の入試難易度別比較 リテラシー

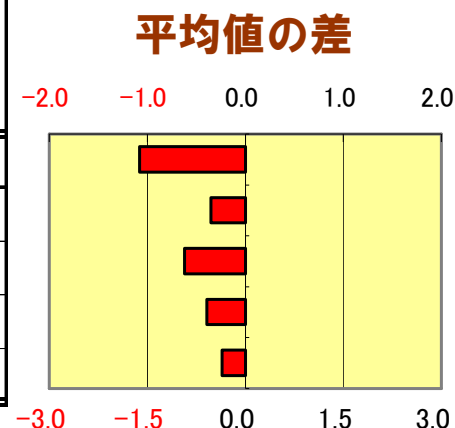


コンピテンシー (標準得点)	総合	問題解決力_総合	51.98	50.20	49.88
		コミュニケーション力_総合	50.38	50.36	49.81
		自己管理能力_総合	52.56	50.06	49.61
	問題解決力	情報収集力	50.73	50.22	49.90
		情報分析力	50.95	50.22	50.18
		課題発見力	52.84	50.27	50.10
		構想力	52.20	50.02	49.53
	コミュニケーション力_マネジメント力	親和力	51.10	50.37	49.69
		協働力	49.91	50.40	49.55
		統率力	50.41	50.21	50.12
	自己管理能力	感情制御力	52.55	50.08	49.92
		自信創出力	52.02	50.10	49.85
		行動持続力	51.40	49.81	49.47
		実行力(実践力)	52.45	50.27	49.49

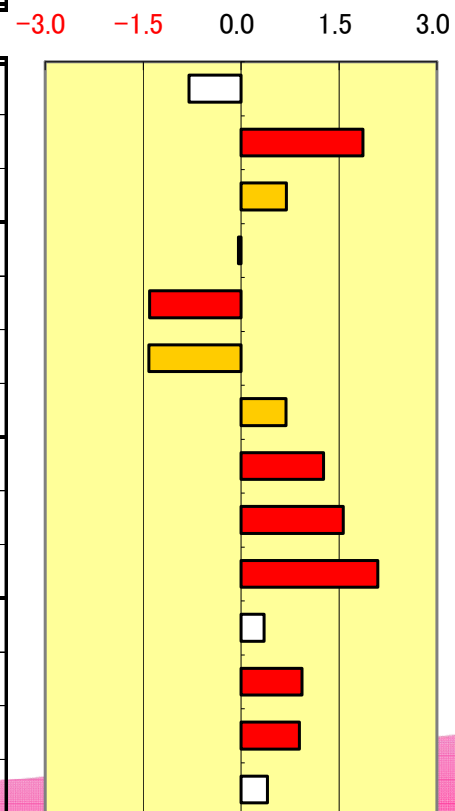
コンピテンシー

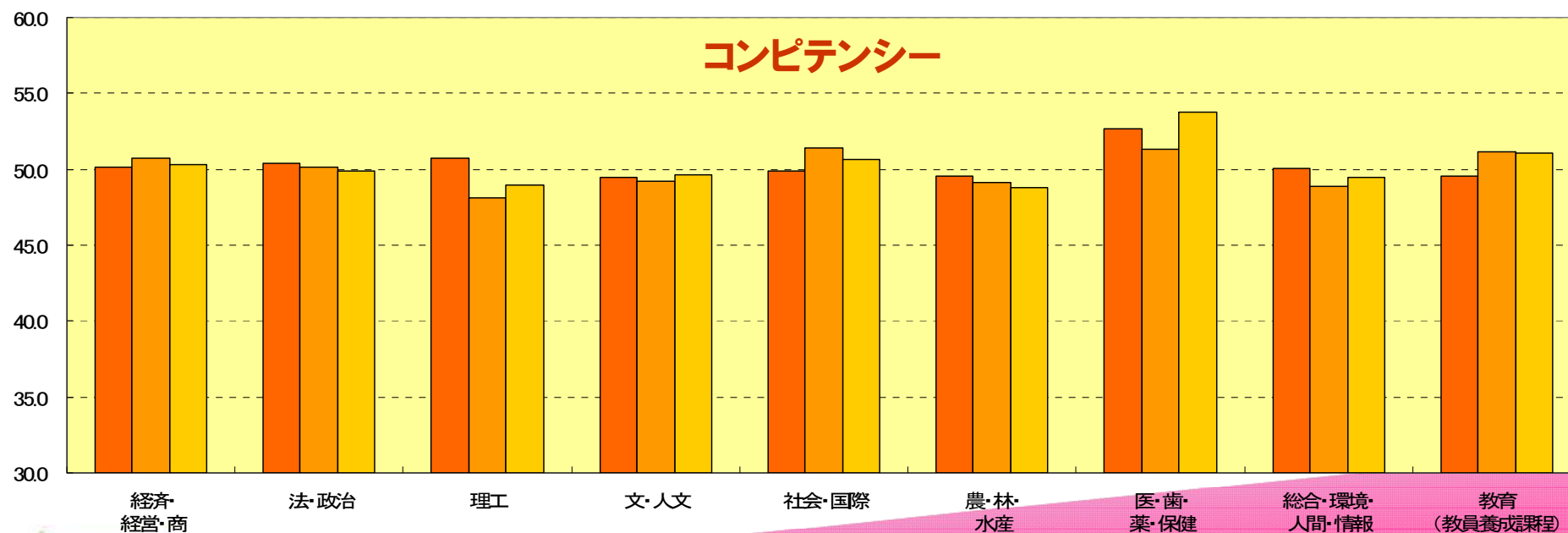
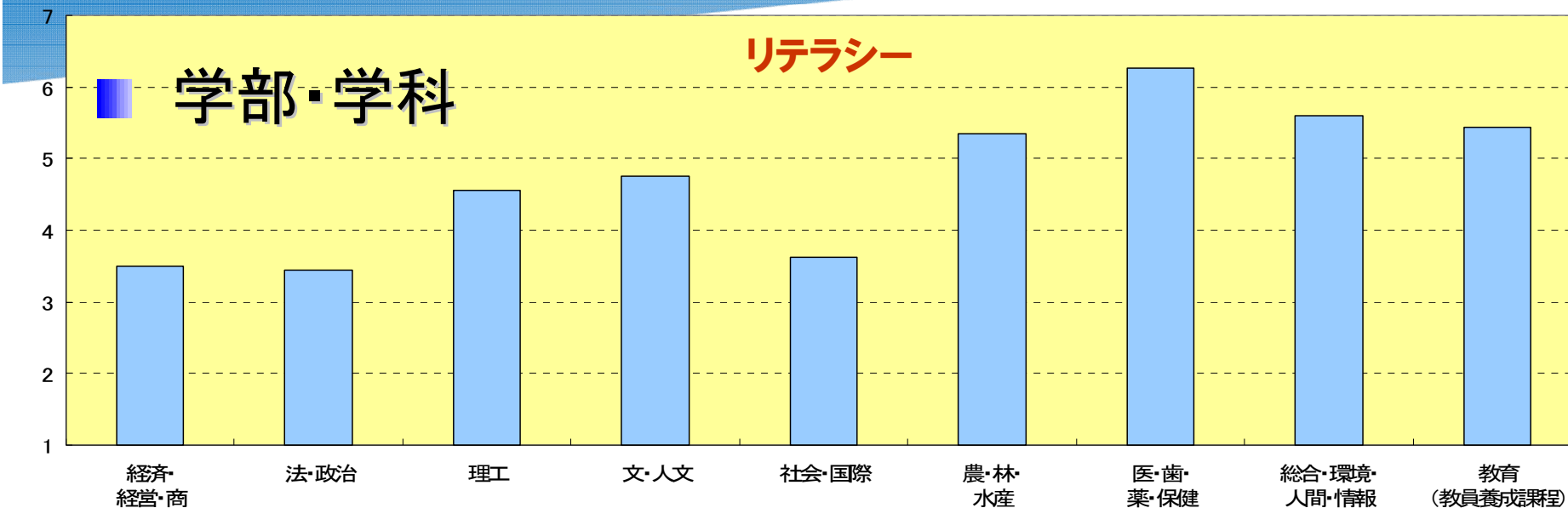


■ 文理			文系 (7641名)	理系 (1424名)	平均値差 (文系-理系)
			平均値	平均値	
リテラシー	問題解決力	問題解決力_総合	3.74	4.81	-1.08
		情報収集力	2.41	2.76	-0.35
		情報分析力	2.36	2.98	-0.62
		課題発見力	2.40	2.79	-0.39
		構想力	2.42	2.66	-0.24



コンピテンシー (標準得点)	総合	問題解決力_総合	50.05	50.85	-0.80
		コミュニケーション力・マネジメント力_総合	50.46	48.60	1.87
		自己管理能力_総合	50.17	49.47	0.69
	問題解決力	情報収集力	50.12	50.16	-0.04
		情報分析力	50.02	51.42	-1.40
		課題発見力	50.13	51.54	-1.41
		構想力	50.09	49.40	0.69
	コミュニケーション力・マネジメント力	親和力	50.37	49.11	1.26
		協働力	50.31	48.74	1.57
		統率力	50.54	48.45	2.09
	自己管理能力	感情制御力	50.24	49.89	0.35
		自信創出力	50.28	49.35	0.94
		行動持続力	49.94	49.04	0.90
		実行力(実践力)	50.17	49.77	0.40





5. 評価と育成の連動

5-1 学士課程における評価と育成

5-2 学生視点から見たメリット

■ 学士課程の質保証

■ 3つのポリシー

■ Admission Policy → Curriculum Policy → Diploma Policy

■ 成績評価の厳格化

■ GPA (Grade Point Average) による成績評価



■ GPAとジェネリックスキルの評価との相関が低い



■ 専門教育とジェネリックスキルの育成を連動させる

■ ベンチマークなどによるレベル評価を明示化する

これからの課題

■ 総合的な評価のデザイン

- だれが 学生自身、仲間、教員、外部者
- 何を 一般知識、専門知識、ジェネリックスキル
- いつ 前—途中—後、入学時—3年次—卒業時
- どのように 診断的評価、形成的評価、総括的評価



- 各大学の3Pに即してデザインする



■ 専門教育とジェネリックスキル育成の連関

■ 客観的な評価の活用

■ IR (Institutional Research) としての活用

- 学生の現状を客観的指標を用いて把握する
- 育成プログラムを検証し、改善に役立てる

■ 学生自身の自覚を促す

- 自己の振り返りと客観的評価の往還
→ 鏡としての役割
- 自己評価と客観的評価の差異と連動の自覚

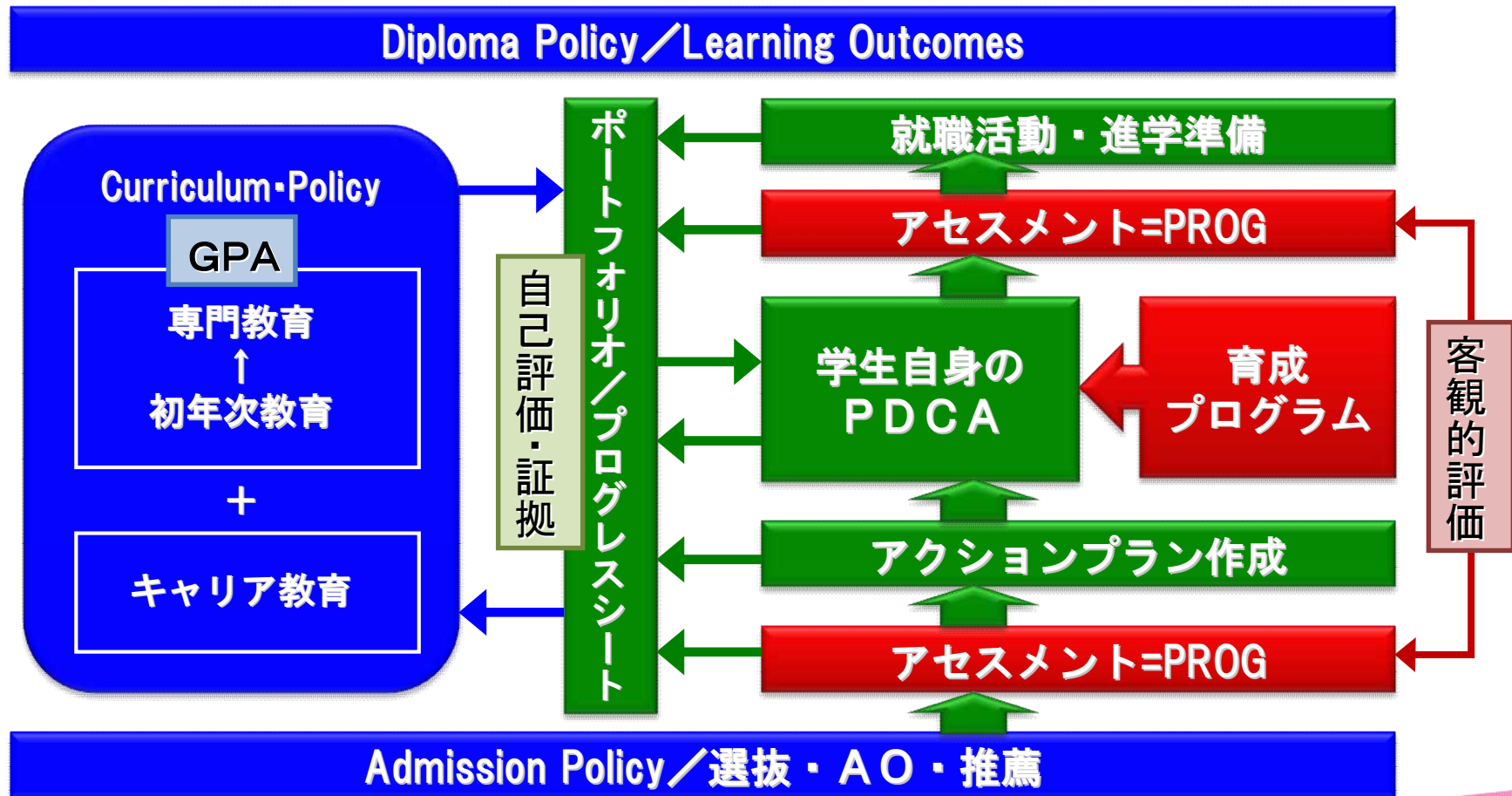
■ 「基礎力」自己評価と客観評価の相関(関東〇私大の例)

大分類	相関係数(r)
対課題基礎力	0.44
対人基礎力	0.77
對自己基礎力	0.56

中分類		相関係数(r)
対課題基礎力	課題発見力	0.29
	計画立案力	0.37
	実践力	0.40
対人基礎力	親和力	0.46
	協働力	0.64
	統率力	0.68
對自己基礎力	感情制御力	0.22
	自信創出力	0.54
	行動持続力	0.33

 ※相関係数(r) ≥ 0.7 に網がけ

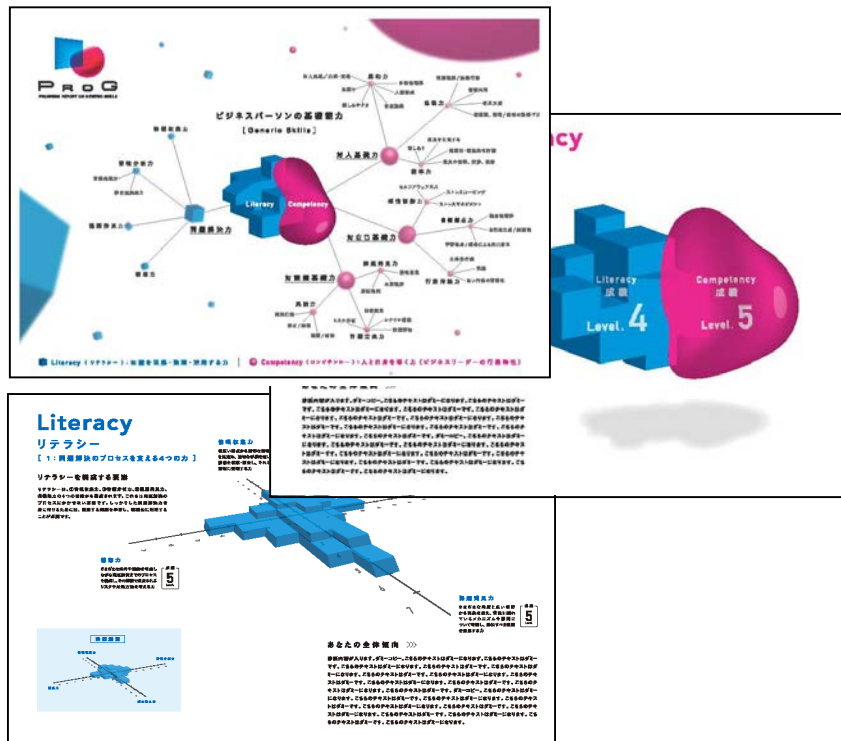
■ 評価と育成のモデル



①「やる気」が上がる

大学入学早々は、誰しも少なからず大学生活に対する漠然とした期待感を持っています。PROGはその期待感を、行動に移す「やる気」に転化します。

単にグラフの高低で一喜一憂し、テストの理解が深まらないことが無いよう報告書を工夫します



「社会で活躍する人に近づきたい！」
漠然とした期待を明確な目標に転換します



②「どうやるか」の示唆が豊富

PROGは複数の教材で、「やる気」の出た学生のアクションや、自学自習を支援します。

ハンドブックは

自分の強み弱みに関する理解を深め、具体的な行動目標を立てるために役立ちます



WEBチュートリアルは
ハンドブックの内容を補足し、PROGの結果理解をさらに深めます

学生用テキストは
例題・演習問題・解説を通じて、リテラシー領域の自学自習を進めます



③「成長」が実感できる

時間を置いてPROGテストを複数受検することで、社会人デビューに向けてどれ程準備が整ってきたか、その「成長」を実感することができます。

④自分の可能性の幅広さを実感する

PROGのコンピテンシーテストでは、実際に社会で活躍する人材の行動特性・判断基準をデータベース化し、そのパターンと学生の回答結果を比較します。判定の基準となるデータベース(教師データ)を、

例えば、

- 企業規模
- 業種(メーカー・非メーカー)

というように複数持つことで、自分の能力(社会で通用する可能性)を、複数の次元で提示することが可能となりました。

これによって学生は、可能性の幅広さを実感することができます。

